

2024年度日本政府（文部科学省）奨学金留学生
JAPANESE GOVERNMENT (MEXT) SCHOLARSHIP FOR 2024

日 本 語 ・ 日 本 文 化 研 修 留 学 生
コ ー ス ガ イ ド
②

COURSE GUIDE OF
JAPANESE STUDIES PROGRAM
②

番号 No.	大 学 名 Name of University	所 在 地 Location	掲載ページ Page	研修コース Type of Course
国立大学 National University				
13	横浜国立大学 Yokohama National University	神奈川県横浜市 Yokohama-shi, Kanagawa	 1	(a)
14	山梨大学 University of Yamanashi	山梨県甲府市 Kofu-shi, Yamanashi	 4	(a)
15	信州大学 Shinshu University	長野県松本市 Matsumoto-shi, Nagano	 7	(b)
16	新潟大学 Niigata University	新潟県新潟市 Niigata-shi, Niigata	 10	(a)
17	筑波大学 University of Tsukuba	茨城県つくば市 Tsukuba-shi, Ibaraki	 13	(a)
18	上越教育大学 Joetsu University of Education	新潟県上越市 Joetsu-shi, Niigata	 16	(a)
19	お茶の水女子大学 Ochanomizu University	東京都文京区 Bunkyo-ku, Tokyo	 19	(a)
20	東京外国語大学 Tokyo University of Foreign Studies	東京都府中市 Fuchu-shi, Tokyo	 22	(b)
21	東京学芸大学 Tokyo Gakugei University	東京都小金井市 Koganei-shi, Tokyo	 25	(a)
22	一橋大学 Hitotsubashi University	東京都国立市 Kunitachi-shi, Tokyo	 28	(a)
23	富山大学 University of Toyama	富山県富山市 Toyama-shi, Toyama	 31	(a)(b)

番号 N0.	大 学 名 Name of University	所 在 地 Location	掲載ページ Page	研修コース Type of Course
24	金沢大学 Kanazawa University	石川県金沢市 Kanazawa-shi, Ishikawa	 34	(a)
25	福井大学 University of Fukui	福井県福井市 Fukui-shi, Fukui	 37	(b)
26	岐阜大学 Gifu University	岐阜県岐阜市 Gifu-shi, Gifu	 40	(a)
27	静岡大学 Shizuoka University	静岡県静岡市 Shizuoka-shi, Shizuoka	 43	(b)

<Note>

1. 「研修コース」(Type of Course)

(a) ... 主に日本事情・日本文化に関する研修
A course intended mainly to study about Japan and Japanese culture

(b) ... 主に日本語能力の向上のための研修
A course intended mainly to improve Japanese language proficiency

2. 具体的な研修内容など、大学を選択する上で分からないことがある場合は、必ず大学へ問い合わせてください。
If you have questions about the detail of the training program, please contact the university directly.



横浜国立大学 (神奈川県)

緑と国際性豊かなキャンパスで日本語と日本学を学ぶ

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

横浜国立大学 (YNU) は、横浜師範学校 (1876年設置)、神奈川県立実業補習学校教員養成所 (1920年設置)、横浜高等商業学校 (1923年設置) 及び横浜高等工業学校 (1920年設置) を前身として1949年に誕生しました。

YNUは、現実の社会との関わりを重視する「実践性」、新しい試みを意欲的に推進する「先進性」、社会全体に大きく門戸を開く「開放性」、海外との交流を促進する「国際性」を、建学からの歴史の中で培われた精神として掲げ、21世紀における世界の学術研究と教育に重要な地歩を築くべく、努力を重ねています。

学部(5):教育学部、経済学部、経営学部、理工学部、都市科学部

大学院(6):教育学研究科、国際社会科学府、理工学部、環境情報学府、都市イノベーション学府、先進実践学環

学生数(2023年5月1日現在):学部生7,212名

大学院生2,205名

常勤教職員数(2023年5月1日現在):教員558名、職員293名



② 国際交流の実績

交流協定締結校数(2023年5月1日現在): 43カ国・地域
147大学・機関

③ 過去3年間の受入れ留学生数(5月1日現在)及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2023年:留学生781人, 日研生5人(大使館推薦4名, 大学推薦1名)

2022年:留学生751人, 日研生2人(大使館推薦2名, 大学推薦0名)

2021年:留学生742人, 日研生1人(大使館推薦1名, 大学推薦0名)

本学の全学生のうち、留学生が占める割合は約8%と大変高い比率となっています。日本語・日本文化研修留学生の受入れは2014年に開始しました。

④ 地域の特徴



横浜国立大学の学部・大学院はすべて横浜市内にある常盤台キャンパスに集約されています。

横浜は東京から電車で30分のところに位置し、人口370万人を誇る日本第二の都市です。200年以上にわたる江戸幕府の鎖国政策が終わり、世界に開かれた港が作られたのが横浜でした。したがって日本の近代化・国際化は横浜から始まったと言えます。現在は異国情緒のあるオシャレな街として、若者を中心に人気の観光スポットになっています。また、日本初の幕府があった古都鎌倉からも近く、非常に魅力的な立地です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

充実した日本語プログラムで、日本語力を高め、世界各国から集まる留学生及び日本人学生とともに日本学関連科目を学び、少人数のゼミで自分の研究テーマを深めることができます。

③ 受入定員

5名(大使館推薦4名、大学推薦1名)

④ 受講希望者の資格、条件等

以下の全ての要件を満たしている者を対象とします。

- 日本語・日本文化に強い関心を持ち、継続的に学習している者
- 「日本語能力試験」N2以上または同等の日本語能力を有する者
- 在籍大学における学業成績が上位の者



⑤ 達成目標

- ・研究分野において、質の高い成果を発信できる知見と日本語力を得ること。
- ・日本人学生及び地域コミュニティとの交流を通じて日本の理解を深めること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2024年9月下旬～2025年8月中旬
（在籍期間：2024年10月1日～2025年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日（2023年は9月29日）

10月： 秋学期開講、オリエンテーション

11月： 常盤祭

2月： 研究発表会、秋学期修了

4月： 春学期開講、オリエンテーション

5月： 清陵祭

8月： 研究発表会、春学期修了・修了式

8月中旬：帰国（2023年は8月30日）



⑨ コースの修了要件

必須科目2単位を含む、学期毎12単位以上取得
成績証明書の発行の可否：可

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

研究と実践活動を重視しています。研究は「日本学プロジェクト」で各自の関心に沿って、テーマの絞り方や文献検索、データの収集から、研究レポート・ポスターの作成に至るまで、毎週のゼミを通じて、少しずつ完成させていきます。日本語・日本事情科目も多数そろえ、日本語のレベルに応じ、全学教育科目や英語による専門科目も履修できます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目・内容

日本学プロジェクト（週1コマ90分）――1年間を通して、日本学に関する研究レポートを完成させます。

https://isc.ynu.ac.jp/about/program/japan_studies_project/

II) 選択科目・内容

日本語レベル、英語レベルに応じて、日本語・日本事情科目（アカデミック・ライティング、経済記事の読み方、待遇表現、神奈川学、異文化コミュニケーション、震災と復興など）及び英語による専門科目を交換留学生（JOYプログラム生）等と一緒に履修します。

<https://isc.ynu.ac.jp/study/>
<https://isc.ynu.ac.jp/about/program/>

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

「地域交流科目」の一部に参加できる予定です。詳細については学期はじめのオリエンテーションで案内します。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

全学教育科目等で日本人学生と共に学ぶ機会があります。一部の英語による専門科目・国際交流科目では日本人学生との共同プロジェクトがあります。



⑪ 指導体制

プログラム担当教員

小川 誉子美（国際戦略推進機構教授）

長谷川 健治（国際戦略推進機構教授）

その他サポート

●留学生オリエンテーション

学期のはじめに新入生に対してオリエンテーションを行っています。留学生活に必要なこと、日本語学習に関すること、留学生向けの事務手続き等について説明します。

●105 & ISL

学生サポートグループが勉強や学内の各種手続きのサポートを行うほか、ウェルカムパーティー、BBQ、インターナショナルフードパーティーなど、日本人と留学生の交流イベントを多数企画している。



■宿 舎

大学の宿舎への入寮を希望する日本語・日本文化研修留学生は、常盤台インターナショナルレジデンス（シェアタイプ：8人1組でキッチンや浴室・トイレを共有する個室付きのシェアユニットタイプ）に優先的に入居することができます。

大学敷地内のため通学時間0分、電車賃もかかりません。

○宿舎数：シェアタイプ（8㎡） 112室

○宿舎費：賃料 32,500円/月

共益金 6,300円/月

水道光熱費 15,510円/月（税込）

入居一時金 55,000円（税込）

○宿舎設備・備品：家具、家電付き



■問合せ先

<担当部署>

横浜国立大学学務・国際戦略部グローバル推進課

住所：〒240-8501

神奈川県横浜市保土ケ谷区常盤台79-8

TEL: +81-45-339-3131（直通）

FAX: +81-45-339-3119

Email: kokusai.shien@ynu.ac.jp

<ウェブサイト>

横浜国立大学日研究生ウェブサイト:

https://global.ynu.ac.jp/admissions/mext_culture/

横浜国立大学国際教育センターホームページ

<https://isc.ynu.ac.jp/>

留学生向け大学案内「Why Study at YNU?」

<https://www.whystudyat.ynu.ac.jp/international/>



山梨大学 (山梨県)

徹底した研究指導。修了生の実に2/3が論文公刊。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

◇歴史

山梨大学の歴史は古く、江戸(えど)昌平覺(しょうへいこう)の分校である甲府学問所「徹典館(きてんかん)」が1796年に設立されたことに始まります。その後、さまざまな変遷を経て、1949年に山梨師範学校、山梨青年師範学校、山梨工業専門学校の3つの教育機関が母体となり、山梨大学が発足し、2002年には山梨医科大学と統合して、現在の山梨大学となりました。山梨大学は、歴史ある大学です。

◇キャッチ・フレーズ 「地域の中核、世界の人材」

このキャッチ・フレーズのもと、山梨大学は個人の尊厳を重んじ、多様な文化や価値観を受け入れ、自ら課題を見だし解決に努力する積極性、先見性、創造性に富んだ人材の養成を目指しています。

研究教育の分野でも、世界に誇るクリーン・エネルギー研究、クリスタル科学研究、そして日本で唯一のワイン科学研究など、未来世代に向けての世界規模の研究を、地域企業との協力・連携を行ないながら進めています。

◇組織

学部：教育学部、工学部、医学部、生命環境学部
大学院：医工農総合教育部（修士・博士）、教育学研究科（教職大学院の課程）

○教員数（本務者）： 797人

○学生数 合計： 4,751人

（大学院生）： 925人

（学部生）： 3,788人

（非正規生等）： 38人



② 国際交流の実績

2023年

大学間交流協定数：22カ国・地域、74協定

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数235人、日研生1人

2022年：留学生数231人、日研生8人

2021年：留学生数239人、日研生0人

*2021年度の日研生の受入人数が0人なのは、2022年度から文部科学省の「日本語・日本文化研修プログラム」に参加したため。また、2022年度の受入れ人数が突出して多いのは、「ウクライナ人留学生特例支援策」により、7名の学生を受け入れたため。

山梨大学では独自の「山梨大学日本語・日本文化研修プログラム」を2016年10月から行い、毎年優秀な修了生を輩出してきました。

「山梨大学日本語・日本文化研修プログラム」受入れ実績

2023年：2人

2022年：2人

2021年：3人



④ 地域の特徴

山梨県は東京の西隣に位置しながらも、自然が豊かで、山梨大学からは富士山が見えます。春には桜だけでなく、桃の花見も行われるほど桃の生産量が多く、ぶどうの生産量とともに日本一です。また、ワインの生産もいち早く始まり、ワイナリーも点在しています。一方、大学周辺に史跡も多く、県内各所に非常に多くの博物館や美術館がありますので、歴史や文化の香りに触れることもできます。普段は自然豊かな中で落ち着いて勉強や研究に勤しみ、休日には気軽に東京へと足を伸ばせる理想的な環境だといえます。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

◇選べる2つのコース

A「研究コース」

ゼミに所属し、そこで徹底的な研究指導を受けます。日本学（言語・文化等）のエキスパートを目指す、あるいは大学院進学を目指す人のためのコースです。研究成果を学会で発表したり、論文を投稿したりすることも視野に入れます。帰国後も指導教員から研究指導を受けられます。

B「研修コース」

ゼミには所属しませんが、日本でしかできないような事例をテーマにして調査します。指導教員から、あるいは留学生のための日本語 Student Assistantからの指導サポートを得てレポートを作成し、それに基づいたプレゼンテーションができるようにします。

◇レベル別、目的別の日本語授業

日研生が受講可能な日本語授業は4レベルに分かれています。授業は「論文・レポートを書く」、「口頭発表をする」等、具体的な目標が掲げられており、目的に応じて授業が選べます。また、JLPT N1対策の授業もあります。夕方の時間帯には本学の日本語サポートSA(Student Assistant)と日本語会話の練習をしたり、レポート作成のサポートを得たりすることもできます。

◇全学共通教育科目から専門科目まで

留学生だけで学ぶ科目は日本語科目だけです。それ以外の科目は全て日本人学生と共に学ぶことができ、日本人学生との交流や協働学習に適した学習環境となっています。日本語のレベルによっては、全学共通教育科目(一般教養科目)だけでなく、専門科目の授業も受けられます。言語、文化、文学、歴史、経済、政治、教育、異文化理解など、自身の興味に応じて授業を選択できます。



③ 受入定員

12名（大使館推薦4名、大学推薦8名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・ JLPT N2以上、または同等以上の日本語力を有すること。
- ・ 本国において、日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在学していること。
- ・ 日本文化、日本社会の理解に努め、母国との架け橋となるのに相応しい者。

⑤ 達成目標

- ・ コース修了者はJLPT N1の取得を目標とする。
- ・ 修了論文、または修了レポートを作成し、成果発表会でプレゼンテーションする。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2024年9月下旬 ～ 2025年9月下旬
（在籍期間：2024年10月1日～2025年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬： 渡日（通常9月26日ごろ受入れ開始）
日本語プレイスメント・テスト
ガイダンス
10月： 後期授業開始
甲府信玄公祭り
11月： 大学祭
甲府市岩窪地区住民との文化交流会
12月： 学長主催外国人留学生懇談会
Holiday Party
2月： 中間発表会
実地見学旅行（1泊2日）
4月： 日本語プレイスメント・テスト
前期授業開始
5月： 食べ物異文化交流会
7月： 茶道体験、柔道体験、桃農園見学
8月： こおりゅうまつり（[こ]どもと[お]となと[りゅう]がくせいのまつり）
成果発表会
9月： 修了式
9月下旬： 帰国



餅つき体験
（地域住民との文化交流会）



甲府 信玄公祭り



柔道体験



流しそうめん
（「こおりゅうまつり」）

⑨ コースの修了要件

選択したコースによってプログラム修了に必要な科目数が異なります。

選択/必修	A 「研究コース」	B 「研修コース」
1. 必修 （ゼミに相当する科目）	2科目・ 4単位	—
2. 選択必修 （日本語科目）	2科目・ 4単位	2科目以上・ 4単位以上
3. 選択 （上記以外の科目）	6科目・ 12単位	6科目以上・ 12単位以上
合計	10科目以上・ 20単位以上	10科目以上・ 20単位以上

上記に加え、A「研究コース」は修了論文提出と口頭発表、B「研修コース」は修了レポート提出と口頭発表が求められ、修了者に対しては修了証書が発行されます。成績証明書の発行も可能です。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

本学は2学期制（後期10月～3月、前期4月～9月）で、いずれの学期も15週間学びます。授業は1コマ（1つ）90分で、それが15回行われ、試験に合格すると1～2単位付与されます。各学期の初めに日本語プレイスメント・テストが行われますので、その時の日本語力に合った科目を履修することができます。また、A「研究コース」を選択した学生はゼミに所属して徹底的に研究指導を受けます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

必修科目（ゼミに相当する科目）

- ・ 地域社会システム学演習（後期）
- ・ 地域社会システム学セミナーI（前期）

文献収集、講読、データの収集方法と分析方法を習得し、論文にまとめ上げる

II) 選択科目

選択必修科目（日本語科目）

- ・ 日本語中上級I 論理的根拠に基づいて話す
 - ・ 日本語中上級II レポートの書き方
 - ・ 日本語上級I 論文の書き方
 - ・ 日本語上級II 資料読解と発表の仕方
 - ・ 日本語演習 発表の仕方
 - ・ 日本語LR JLPT N1レベルの読解演習
 - ・ ビジネス日本語 ビジネス場面で用いられる日本語
- *上記以外に初中級から中級レベルの日本語科目が8科目あります。

選択科目（上記以外の科目）

全学共通教育科目（一般教養科目）だけでなく、専門科目の授業から、言語、文化、文学、歴史、経済、政治、教育、異文化理解など、自身の興味と日本語力に応じて科目を選択できます。

*これまでのプログラム生が履修した主な科目

- ・ 日本事情I/II<日本文化を見つめなおす>
- ・ 日本語教授法<日本語の教え方の基礎>
- ・ 日本語の音声・音韻<日本語音声学>
- ・ 日本古代の政治と文化<甲斐国(現山梨県)の歴史>
- ・ 日本国憲法<社会問題と法>
- ・ 書写演習I/II<書道の知識と技能>

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

・日本事情I/II

講義、ディスカッションと、実地見学旅行や地域交流を有機的に結び付けて授業を行います。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本語科目以外は全て日本人学生と共に学ぶこととなりますが、以下の3科目は特に「共修」ということを意識して授業が行われています。

・日本事情I/II

様々な視点から日本文化を見つめなおす

・Japanese Society from an International Perspective

社会学・人類学の視点から現代の日本社会を理解する

・Health System and Well-being in the World

医療制度と社会福祉に関する諸問題を考察する

⑪ 指導体制

「研究コース」、「研修コース」いずれの学生にも本学学生がチューターとして1年間日本での生活や日本語学習のサポートをします。

1. 「研究コース」の学生は国際化推進センターに所属し、日研生プログラム担当教員が指導します。

教員名	専門分野	キーワード
江崎 哲也	音声学 日本語教育学	学習者の音声 音響音声学 コーパス言語学 ブルガリア語
伊藤 孝恵	日本語教育学 社会学	日本語教育 キャリア教育 留学生支援 多文化共生
布村 猛	日本語教育学 音声学	学習者の韻律 フィールド言語学 地域日本語教育

2. 「研修コース」の学生は、国際化推進センター以外の教員が指導することもあります。



G-Philos (グローバル共創学習室) で
楽しく日本語会話



Holiday Party

■宿 舎

○宿舎数

単身用101室、夫婦用2室、世帯用2室

○宿舎費

単身用 12,000円～15,000円、

夫婦用 17,000円、世帯用 21,000円

○宿舎設備・備品

主に各部屋に机・イス・ベッド・クローゼット・バス・トイレ・エアコン（バス・トイレは共用のこともあります）。

キッチン・洗濯室は共用（宿舎により異なる）

○宿舎周辺の生活情報、通学時間

大学・最寄りのコンビニエンスストアまで約1km、最寄りのスーパーまで約2km

通学時間：自転車で約5分（宿舎により異なる）



宿舎外観

■修了生へのフォローアップ

SNSやEメールで進学、または就職についての相談に応じます。なお、「研究コース」修了学生に対しては、修了後1年にわたって派遣校の指導教員と共に研究指導を行い、学会での発表や論文投稿を目指します。これまで山梨大学独自の「山梨大学日本語・日本文化研修プログラム」を行ってきましたが、修了後1年以上を経た修了生の約3分の2にあたる14名が本学の紀要に投稿し、掲載されています。また、そのうちの1名は中国国内で行われた論文コンクールで上位入賞を果たしています。



大村智記念学術館

（本学を卒業した大村智博士のノーベル賞受賞とその偉業を称え、創設されました。）

■問合せ先

<担当部署>

山梨大学教学支援部グローバル推進課

住所：〒400-8510

山梨県甲府市武田4-4-37

TEL： +81-55-220-8047（直通）

FAX： +81-55-220-8019

Email： yu-study-abroad@ml.yamanashi.ac.jp

<ウェブサイト>

山梨大学国際化推進センター・グローバル推進課：

<https://www.ciee.yamanashi.ac.jp/>

山梨大学：

<https://www.yamanashi.ac.jp/>



信州大学 (長野県)

豊かな自然。地域とのふれあい。実践に則した日本語が学べます。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

信州大学は8学部（人文、教育、経法、理、医、工、農、繊維）、5大学院研究科（総合人文社会科学、教育学、総合理工学、医学系、総合医理工学）を擁する総合大学です。松本・長野・上田・伊那に5つのキャンパスがあり、学部学生約9,000名、大学院生約2,000名、計約11,000名が学んでいます。そのほかにグローバル化推進センター、6つの研究領域で特色のある最先端の研究を行う先鋭領域融合研究群などの教育・研究施設があります。キャンパスのある各地域は、豊かな自然環境と伝統ある教育環境に恵まれ、独自の発展をみせています。



松本キャンパスの中央図書館

信州大学は各地域の発展のために教育的にも経済的にも大きな貢献をしており、日本の大学ランキングの「地域貢献度」では2012年から4年連続、そして2019年2020年にも日本一になりました。

② 国際交流の実績

海外の大学との学術交流協定（2023年5月1日現在）
大学間協定：113大学 学部間協定：89大学

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数325人、日研生4人
2022年：留学生数335人、日研生4人
2021年：留学生数313人、日研生5人

④ 地域の特徴

本学は、「信州」という日本国内で有名な山岳リゾートに位置しており、日本のほぼ中央にあります。高い山々に囲まれ、四季折々の景色が美しく自然豊かな地域です。登山に関しては日本一であり、国立公園や高原、山々など、自然の中に簡単に入って楽しんだりフィールドワークを行うことができます。歴史を感じさせる古城や神社仏閣が多くあるほか、豊富な温泉も長野県の大きな特徴の一つです。1998年に冬季オリンピックが長野市で開催されたように、冬はウィンタースポーツの中心地としても有名です。

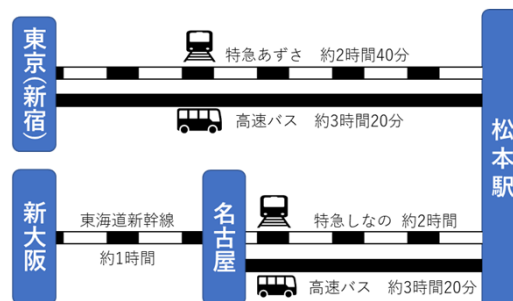


松本城



紅葉の北アルプス

日本語・日本文化研修留学生（以下、日研生）が学習する松本キャンパスは、日本の中心にあるため、東京・名古屋から電車で2時間30分、大阪からでも3時間30分と大都市への移動も簡単です。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

信州大学では日本語教育を実施しており、レベル別指導やアカデミックな日本語の指導まで幅広く行っています。また、日本文化についても学習機会が多くあります。さらに、人文・経済・理学の専門科目の受講も、条件がそろえば可能です。



授業の様子

また日研生が自国の紹介を行うことにより、日本人学生の国際理解進展につながり、お互いに刺激しあっています。それにより日研生の出身国に留学する日本人学生が増え、また日研生が信州に戻るなどプラスの循環が見られます。これからの日研生にも同様の活躍を期待しています。



授業で着物体験

多文化共生と国際交流の祭り

③ 受入定員

5名（大使館推薦3名、大学推薦2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・日本人と一緒に授業が受けられる人
- ・辞書を引きながら日本語の資料が読める人
- ・自分の専門分野について日本語で説明できる人
- ・日本人と積極的に関わる意志がある人
- ・日本人に自国の文化を紹介する意志がある人

⑤ 達成目標

CEFRの「C1」程度を目標としますが、自分の専門分野について、日本人に日本語で効果的なスピーチができれば達成とみなします。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2024年9月下旬 ～ 2025年8月下旬
(2024年10月1日 ～ 2025年9月30日)

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年8月



⑧ 研修・年間スケジュール（変更になることがあります）

- 9月下旬 渡日
- 9月下旬 日研生ガイダンス・授業開始
- 10月 浅間温泉たいまつ祭り（日本三大奇祭）
- 12月 多国籍料理パーティー
- 1月下旬 1学期目のテスト・レポート
- 4月 日本人交流グループとお花見
- 6月 多文化共生と国際交流の祭り
(一般の日本人と共に祭りを創る)
- 7月下旬 2学期目のテスト・レポート
- 8月 発表会
- 8月 松本ぼんぼん（松本最大の祭り）
- 8月下旬 修了式・帰国



⑨ コースの修了要件

以下の条件を満たせば修了となります。

- 1) 必修科目を含む12科目14単位以上を修得する。
- 2) 国際共修・国際理解に関する講座に参加する。
- 3) 期間中の学びを発表会で発表する。

修了要件をクリアした者は、修了証書を授与します。帰国後になりますが、信州大学の発行する成績証明書を、単位認定後に郵送します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の概要

⑦ 日本語と日本社会の学習

これまで学んできた日本語力をさらにブラッシュアップするための日本語の科目が用意されています。大学レベルの授業についていけるための読解・聴解・作文等を学びます。また、日本の地域（松本）・歴史・医療等を学ぶ科目、仕事観・就職活動の進め方について学ぶ科目等もあります。長野県内の企業を回るイベント等もあります。



④ 広範囲の科目と専門科目

日研生は、学部1年生が受ける非常に広範囲で大量の科目から自由に選んで受けることができます。その中には、留学生と日本人学生が深く連携して学ぶ「国際共修」の科目も多くあり、日本人の友達を作りやすいです。

また、人文・経法学部の専門の科目も受けられることが多いです。先生の許可が出れば、より専門的で深い内容の勉強を進めることも可能です。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

⑦ 日本語作文

- ① 一般学生向けに開講する教養科目、専門科目
2学期目に留学生に特化していない授業を3科目（6単位）以上受講することを必須とします。
日本語レベルが低いと判断した場合、必須科目を一部変更する場合があります。

II) 選択科目

以下の授業を受講することを推奨しています。

- ・「国際理解と多文化共生を考える」
日本人との共修による多文化共生等の学習
- ・「日本社会と日本人」
就職活動やビジネス等、日本の様々な側面の紹介および議論
- ・「武道伝統文化実習」
茶道、着物、剣道など

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加できる科目及びその具体的な内容

信州大学にある教育学部附属小学校や中学校の国際理解講座の授業に参加します。小・中学生と交流しながら日本の初等教育についても学び、皆さんの国の教育を小中学生に伝えます。



附属中学校での国際共修

4) 日本人学生との共修科目及び具体的な内容

「国際理解と多文化共生を考える」

この授業は日本人学生と留学生がほぼ半数の50-70名で受講するもので、日本人・留学生同数の小グループ（4、5名）を形成します。授業は、講師が日本や世界の多文化共生に関する情報や直近の世界的話題を提示し、問題提起した後にディスカッションをする形で進みます。毎週の課題と小テスト、グループ全体でのスライド作成、期末レポート等の課題を通じて学習を深めます。



安曇野での日本人との交流会

グローバル化推進センターが開講する授業については、ホームページで詳しく調べることができます。

⑪ 指導体制

・指導教員

日研生はグローバル化推進センターの所属となり、専任教員が学業面・生活面について個別指導を行っています。

専任教員： 佐藤友則

・協力教員等

人文学部等、専門分野の協力教員と連携して多岐にわたる専門の学習をサポートしています。

・チューター

日本人学生がチューターとして、皆さんをサポートします。来日時の煩雑な手続きや学習面、生活面の相談相手、観光スポットの紹介など頼れる相談相手です。



国宝松本城と留学生たち

■宿 舎

① 宿舎状況

キャンパスまで歩いて10分以内のアパートを紹介しています。エアコンが設置され、インターネット環境も整っています。

② 宿舎費

32,000円～35,000円/月（インターネット無料、光熱費は別）
入居時初期費用：約10,000 ～ 48,000円/年（共益費ほか）

* 費用は変更の可能性があります。

③ 設備

家具・家電製品・ガスコンロがついています。身の回りのものだけ持ってくれば生活ができます。自炊可能です。



■修了生へのフォローアップ

信州大学の日研生プログラム修了生とは、信州大学国際交流同窓会を通じて連絡を取り合っています。同窓会の本部は松本、支部は、韓国、中国（北京&上海&石家荘）、タイ、モンゴル、ベトナム、マレーシアにあり、将来的には欧州、米国、インドネシアなどにも展開が予想されています。

修了生の中には大学教員になっている人もおり、その修了生の勤務する欧州の大学と信州大学の大学間交流協定締結が実現したり、その大学から新たな日研生が来学するなどの成果があがっています。また、卒業後に長野県の企業に就職し、母国と長野県の懸け橋になっている者や、休暇で松本を訪問し、自分が勤める会社について日本人学生にプレゼンをする者もいます。



国際交流同窓会・松本の様子



キャンパスを歩く留学生と日本人学生



「松本ぼんぼん」祭りの踊りの練習

■問い合わせ先

<担当部署>

国際部国際企画課

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

TEL +81-263-37-3360

FAX +81-263-37-2181

E-mail: gecschlr@shinshu-u.ac.jp

<担当教員>

グローバル化推進センター 佐藤友則

E-mail: stomo@shinshu-u.ac.jp

<ウェブサイト>

グローバル化推進センターホームページ：

<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/gec/>

信州大学ホームページ：

<https://www.shinshu-u.ac.jp/>



新潟大学 (新潟県)

日本語力を磨いて、リアルな日本を体感しよう！

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

新潟大学は1949年に設立され、10学部、5大学院研究科、医歯学総合病院を有し、約12,000人の学生と約2,600人の教職員を擁しています。日本海に面している県にある大学としては、最大規模の大学です。新潟市にふたつのキャンパスがあります。市の中心部に位置する旭町キャンパスには、医学部、歯学部および附属新潟小学校、中学校、特別支援学校があり、市の西部にある五十嵐キャンパスには、8学部があります。

② 国際交流の実績

大学間交流協定：30カ国・地域 106件
学部間交流協定：34カ国・地域 258件



③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数522人、日研生5人
2022年：留学生数383人、日研生2人
2021年：留学生数366人、日研生3人

④ 地域の特徴

新潟県は質の良いお米と日本酒の産地であり、また、豪雪地帯として有名です。新潟大学の所在地である新潟市は、あまり雪は降りませんし、東京と比べて物価が安く生活費が多くかかりません。ですから日本語と日本の（地域）文化を学びたい学生にとっては、ちょうど良いところudur。夏は大学の近くにある海で海水浴、また、冬はスキーやスノーボードといった雪国らしい楽しみ方もできます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

留学生だけの日本語のクラスで日本語を学ぶのではなく、日本人との共修科目（例：アクティブラーニングA/B/C）の中で、実際に使用しながら日本語を学ぶ機会を設定しています。共修科目では、広く日本の文化について、日本人とできるだけ意見交換をしながら、中から見る日本と、外から見る日本を比較することで、より深く日本を理解してもらうことを狙いとしています。もちろん留学生向けの日本語のクラスの中でも学ぶことが可能です。

ここでいう日本の文化とは、歴史や宗教などに限らず、アニメや若者文化といった、現代日本文化についても含まれます。さらに新潟という地域の特徴的な文化も学ぶことができます。新潟は日本でも有数の米どころ、酒どころです。また世界でも有数の豪雪地域でもあるので、独自の雪文化などを学ぶこともできます。

また、実地見学旅行、ホームステイなどに参加する機会も設けています。これらに積極的に参加することによって、本物の日本を肌で感じてもらいたいと思っています。

③ 受入定員

10名（大使館推薦8名、大学推薦2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

このプログラムに参加を希望する学生は、新潟に来る前に日本語能力検定試験N2に合格しているか、あるいは講義内容を理解するのに必要な日本語能力を有していなければなりません。また学業に専念してもらうために家族と一緒に来日することはできません。

⑤ 達成目標

日本語で調べた日本について、日本語でプレゼンテーションできる力をつけることを目標とします。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2024年9月下旬 ～ 2025年8月下旬
（在籍期間：2024年9月下旬～2025年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬 渡日

10月 始業式 / 新大祭

11月 音楽祭盆踊り

12月 能公演

2月 能公演 / 学習成果発表会

4月 黎明祭（新入生歓迎会）

6月 ホームステイ

7月 盆踊り大会 / 舞台芸術公演

8月 地域の祭り / 終業式

8月下旬 帰国



⑨ コースの修了要件

プログラムを修了すると、修了証書及び成績証明書を発行します。
修了要件は、必須科目4単位（2単位/期）を含む年間20単位以上（最低10単位/期）の履修です。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

各自の興味にしたがって日本のあらゆる文化について、日本語クラスと日本人との共修クラスを中心に学んでいきます。さらにレポート作成指導では、各自のテーマについて日本語で発表し、それをまとめて提出します。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

秋期には課題研究Ⅰが、春期には課題研究Ⅱが必須科目となります。

◆ 課題研究Ⅰ・課題研究Ⅱ

課題研究のため、演習形式で行われます。担当教員からレポート作成や発表会に向けて指導を受けます。

Ⅱ) 選択科目

一般学生が受講する科目には、日本語・日本文化研修留学生も同じように受講できる科目が多くあります。授業を通じて日本人学生との交流を図ることができます。地域に根ざした文化を学べる授業もありますので、新潟をよりよく知ることができます。

● 必須科目（予定）

	科目名	単位	時間数
①	課題研究Ⅰ／Ⅱ	各2	32

● 選択科目（日本語科目）（予定・一部抜粋）

	科目名	単位	時間数
②	日本語読解Ⅰ～Ⅵ	各1	16
③	英語による日本語文法解説	1	8
④	中国語による日本語文法解説	1	8
⑤	JLPT-N1	1	16

● その他の選択科目（予定・一部抜粋）

	科目名	単位	時間数
⑥	日本事情科目	2	15
⑦	多文化間共修A/B/C/D	各1	各8
⑧	ビジネス日本語	2	16
⑨	地域から文化を考える	2	15
⑩	日本と外国人	1	8
⑪	アクティブラーニングA/B/C	各1	各8
⑫	国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションA/B	各2	各16
⑬	国際共修：留学生との協働学習を通じた異文化理解A/B	各2	各16
⑭	国際共修：留学生と考える日中言語文化A	1	8

◆ 各種日本語科目

日本語能力検定試験のN1対策授業、日本語読解と英語または中国語による日本語文法解説のクラスが受講できます。ほかには少しレベルの高い、社会人としての日本語力やコミュニケーション能力、異文化理解力などを身に付ける科目があり、これは将来国際的な仕事をし、日本／日本人と関わりたいことを希望する人向けに設定された授業科目です。また将来、日本の大学院などに進学するため、日本語と自分の母国語、日本の文化と自分の文化を比較・研究する科目も受講できます。

● 履修モデル（N2レベル）

	月	火	水	木	金
1限			⑪		
2限			⑥		⑦
3限	⑬			⑫	
4限		①		②(V)	②(VI)
5限					

N2レベルの学生が、週に8コマ、12単位を修得する履修モデルです。履修科目名は、科目一覧表に書かれている数字と照らし合わせてご確認ください。他にもレベル別に履修モデルを組んでいます。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

授業科目ではありませんが、年間の行事の中で、施設見学や地域住民と交流する機会がたくさんあります。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本人学生とともに学べる科目がたくさんあります。また日本人学生をチューターとして配置しています。また「外国語学習支援スペース」などでは、日本人学生の外国語学習のチューターとして活躍しています。

⑪ 指導体制

本プログラムでは担当指導教員とチューターによる個人指導を必ず受けます。個人指導の内容は主に、レポート作成に向けての学業指導です。必要に応じて生活指導も行います。



学習成果発表会

■宿 舎

新潟大学国際交流会館

設備：バス、トイレユニット、キッチンユニット、給湯設備、冷暖房用空調設備

備品：ベッド、机、椅子、書棚、洋服タンス、食器棚（テーブル付）、食卓イス、ガスコンロ、冷蔵庫、電子レンジ、消火器

寄宿料：月額22,000円（単身室）

外国人研究者および留学生のための宿舎としてキャンパス内に国際交流会館があります。

また、大学近くのアパートを「生協委託宿舎」として、留学生に提供しています。（月額25,000～45,000円）



■修了生へのフォローアップ

日研生担当教員が修了生とメールなどで常に連絡を取り合っています。

また、入試説明会などで当該国に行く場合には修了生に協力してもらっています。日本の大学院への進学を希望する修了生に対して相談に応じています。



■問合せ先

<担当部署>

新潟大学国際センター / 留学交流推進課

住所：〒950-2181

新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地

TEL：+81-25-262-6189（直通）

FAX：+81-25-262-7519

Email：intl-scholarship@adm.niigata-u.ac.jp

<ウェブサイト>

国際交流・留学情報ホームページ：

<https://www.niigata-u.ac.jp/international/>

新潟大学：

<https://www.niigata-u.ac.jp/>



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学 (茨城県)

自然・文化・国際性豊かな「サイエンスシティ」つくばで学ぶ日本語・日本文化

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

筑波大学は、国内的にも国際的にも「開かれた大学」として、旧来の固定観念に捉われない柔軟な教育研究組織と時代の要請に応える新しい大学の仕組みを創出することを基本理念として、1973年10月に開学した。社会経済環境が大きく変化するなか、筑波大学は未来を構想するフロントランナーと自らを位置付け、地球規模の課題の解決に向けた知の創造とこれを牽引するグローバル人材を輩出する、世界的な教育研究の拠点となることを目指している。

学士課程：

人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群、生命環境学群、理工学群、情報学群、医学群、体育専門学群、芸術専門学群、グローバル教育院、総合学域群

学士課程専任教員数：教授、准教授、講師、助教
計 1,563 名

学生数：学群生 9,635名、 大学院生 7,020名
計 16,655名

(2023年5月現在)



② 国際交流の実績

在籍留学生数：2,399名/115か国（2023年5月現在）
協定締結：67か国・地域の大学や研究機関と
378協定（2023年10月現在）

過去3年間の実績

2023年：留学生数	2,399名
日本語・日本文化研修留学生	6名
2022年：留学生数	2,226名
日本語・日本文化研修留学生	4名
2021年：留学生数	2,688名
日本語・日本文化研修留学生	3名

③ 地域の特徴

つくば市は東京の北東60km、北に筑波山を仰ぎ、東に霞ヶ浦をのぞむ自然環境の豊かな地域に位置している。筑波研究学園都市（サイエンスシティ）として国内外に知られており、市内には、国の研究機関・大学を中心とし、民間の研究・教育機関等が多い。そのため、外国からの研究者・留学生が多く住んでおり、国際色豊かな街を形成している。つくばと東京都心はつくばエクスプレス（TX）により最短45分で行き来することができる。



自然豊かなキャンパスが魅力

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

(a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

- i) 日本語・日本文化研修留学生（以下、日研生）向けの授業科目を設けている。その他の科目でも、日研生の興味に応じた授業を履修することができる。
- ii) 日本語と日本文化について、教室内外での実習による学習を重視している。
- iii) 修了レポートの執筆を課している。
- iv) 様々な研究内容に対応可能な指導体制で、親身できめ細かい指導を行う。一人一人に学術チューターがつく。

③ 受入定員

8名（大使館推薦：6名 大学推薦：2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

日研生となることを希望する者は、以下の条件を満たす者とする。

i) 資格

来日時点で、外国（日本以外）の大学の日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在籍する者、またはそうした学部・学科に所属していない場合であっても、日本語・日本文化に強い関心を持つ者。ただし、1年生は対象外とする。

ii) 日本語能力

日本語による授業を理解し、日本語の参考文献を読み、日本語でレポートを書き、口頭発表を日本語で行なう能力のある者。日本語能力試験N2程度以上が必要となる。

⑤ 達成目標

日本の言語と文化について幅広く学び、日本についての理解を深める。これらの学習を通じて日本語の運用能力を高める。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2024年9月下旬 ～ 2025年9月下旬
(2024年10月1日 ～ 2025年9月30日)

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年9月

⑧ 年間行事・年間スケジュール（予定）

9月下旬：渡日

9月末：オリエンテーション

11月：留学生パーティー

11月下旬：学外研修

12月：修了レポート構想発表会

4月：修了レポート中間発表会

5月：日本語・日本文化学類生との交流会

7月：修了レポート発表会

9月初旬：修了式

9月下旬：帰国

⑨ コースの修了要件

合計20単位以上修得し、日本語・日本文化分野に関する修了レポートを提出した者には「修了証書」を授与する。

※なお、研修終了日より以前に早期帰国を希望する場合には、事前相談に基づき事情を判断し、所定の手続きを踏むことを条件に、認める場合がある。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

i) 研修・コース科目の特徴

日研生は主に日本語・日本文化分野に関する授業に興味に応じて履修することができる。また、日本語能力を向上させるため、本学が開講する日本語コースを履修することもできる。修了レポート執筆に係る科目群において、日本語によるアカデミックライティング指導を重視した科目づくりになっている。

<表1> 研修科目及び単位数

	研 修 科 目	計
(Ⅰ)	日本語・日本文化実験実習	1
	日本語・日本文化基礎研究	1
	日本語・日本文化特別研究	2
	日本語・日本文化修了レポート	2
(Ⅱ) *	現代日本語概論Ⅰ	1
	言語学概論	1
	日本語教育概論	1
	日本の文学概論	1
	日本文学の歴史	1
	世界文学と日本文学	1
	多文化の中の日本	1
	日本語・日本文化共同研究Ⅰ	1
	日本語・日本文化共同研究Ⅱ	1
	日本語・日本文化共同研究Ⅲ	1
	日本語・日本文化共同研究Ⅳ	1
	言語教育対話実習Ⅰ	1
	言語教育対話実習Ⅱ	1
(Ⅲ)	総合日本語コース（中級～上級）	**
(Ⅳ)	選択科目	**

* 年度によって開設科目の変更がある。

** 選択した科目によって単位数が異なる。

ii) 研修・コース開設科目

必修科目（60コマ、90時間）

<表1>の(Ⅰ)の科目。本コースのために特別に開設されている。

- ・「日本語・日本文化実験実習」：学外研修
- ・「日本語・日本文化基礎研究」：
修了レポート作成のための基礎指導
- ・「日本語・日本文化特別研究」：
修了レポート作成指導
- ・「日本語・日本文化修了レポート」：
修了レポート作成・発表

選択必修科目（40コマ、60時間）

<表1>の(Ⅱ)の科目群から最低4科目（4単位）を選択して履修する。

- ・「現代日本語概論Ⅰ」：
現代日本語の音声・音韻、語彙、文法、談話・文章
- ・「言語学概論」：
言語の類型、言語の構造と意味
- ・「日本語教育概論」：
日本語教育のコースデザイン
- ・「日本の文学概論」：
海外に翻訳・紹介された日本文学
- ・「日本文学の歴史」：
日本文学の基層となる古代文学
- ・「世界文学と日本文学」：
文学作品に描かれた人と動物の関係
- ・「多文化の中の日本」：
多文化状況の中の日本について検討
- ・「日本語・日本文化共同研究（Ⅰ～Ⅳ）」：
日本語の文法や言語表現、日本文化に関する日本人学生と留学生との共同研究
- ・「言語教育対話実習（Ⅰ・Ⅱ）」：
日本人学生と留学生による外国語模擬授業のチームティーチング

総合日本語コース（中級～上級）

ブレースメントテストの結果に基づいて、各自に合ったレベルを受講する科目である。技能別の上級レベル日本語の授業も含み、本学のグローバルコミュニケーション教育センター（CEGLOC）が開設する日本語コースである。ただし、日研生コースの修了要件として認められる単位数は、6単位を上限とする。

選択科目

日本語・日本文化学類や他学類の開設する科目の中から日研生の興味に応じて自由選択できる。

iii) 見学・地域交流等の参加型科目

必修科目の「日本語・日本文化実験実習」は、学外研修であり、日本人のチューターと共に日本文化や日本人の生活について学ぶ。

iv) 日本人学生との共修等の機会

<表1>の(Ⅱ)と(Ⅳ)の科目は、日本人学生が履修する正規科目で、これらの科目を履修することによって日本人学生との共修・協働の機会が得られる。特に、「日本語・日本文化共同研究(I～Ⅳ)」では、日本語、日本文化に関する様々なトピックについて、日本人学生と留学生とが協働で、調査、発表、討論を行う。



日本語・日本文化実験実習（国立歴史民俗博物館）

⑪ 指導体制

- i) 担任教員と副担任教員が指導を行う。
担任教員 澤田 浩子 准教授
副担任教員 江口 真規 助教
- ii) 日研生一人につきチューター一名が配置され、主に生活面を手助けする。
- iii) 修了レポートを執筆する時期には、各日研生について、担任教員とは別に、専門に応じた指導教員と学術チューター（大学院生）が指導を行う。

■ 宿舎

全員が筑波大学の単身用宿舎に入ることができる。入居時に、1か月分の宿舎費（3～4万円程度）および保証金（3万円）の支払いが必要である。また、希望すれば、大学周辺の民間アパートを借りることもできる。

■ 修了生へのフォローアップ

日研生からの近況報告や、教員からのメッセージを載せたニュースレター『日研生 E-だより』を年1回発行し、これまでの日研生全員にメール送付している。また、日本語・日本文化学類のウェブページやSNSを利用し、情報発信や交流を図っている。



日本語・日本文化研修留学生修了式

■ 問合せ先

<担当部署>

◆コース内容について

筑波大学日本語・日本文化学類

住所：〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1

TEL： +81-(0)29-853-6764（直通）

FAX： +81-(0)29-853-6839

E-mail：nichi2_office@un.tsukuba.ac.jp

◆事務連絡について

筑波大学学生部学生交流課

住所：〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

TEL： +81-(0)29-853-6090（直通）

FAX： +81-(0)29-853-6204

E-mail：isc-short-term@un.tsukuba.ac.jp

<ウェブサイト>

筑波大学：

<http://www.tsukuba.ac.jp/>

筑波大学日本語・日本文化学類：

<http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/jss/>



日本人チューターとキャンパス内をサイクリング

上越教育大学 (新潟県)

日本語及び日本文化に関し、体験を通して理解を深めます。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特徴と歴史

上越教育大学は、1978年10月に創設された大学です。

初等中等教育教員に高度な学習と研究・研鑽の機会を提供することを趣旨とする大学院修士課程と初等中等教員を養成する学部を持ちます。本学の理念は学校教育に関する理論的・実践的な研究と教育実践の推進にあるため、理論的専門科目はもとより、各教科の実践的な実習科目に至るまで開講されています。

また、2008年（平成20年）4月1日の教職大学院制度発足に合わせ、大学院学校教育研究科に、専門職学位課程（教職大学院）を設置しました。教職に関する精深な学識を身につけ、教育現場に生起する問題や事象について即時的に判断し、対応する力量を有する教育者を育成することを目的としています。

2) 教員・学生数等（2023年5月現在）

教員数：142人

学生数：

学部学生：673人

大学院学生：505人



〔冬景色の上越市〕

② 国際交流の実績（2023年10月現在）

・外国人留学生在籍者数：30人（8か国・地域）

・交流協定校：10校（7か国・地域）

ハル濱師範大学（中国）

北京師範大学（中国）

内蒙古民族大学（中国）

韓国教員大学校（韓国）

国立嘉義大学（台湾）

国立清華大学（台湾）

アイオワ大学（アメリカ合衆国）

チャナツカレ・オンセキズ・マルト大学（トルコ）

カレル大学（チェコ）

ブランデンブルク工科大学（ドイツ）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数30人、日研生1人

2022年：留学生数31人、日研生1人

2021年：留学生数37人、日研生3人

④ 地域の特徴

上越市は、歴史的文化財が豊富であるとともに自然環境にも恵まれ、雪国を代表する都市として有名です。

東京からは、北陸新幹線を用いて約2時間で来ることができます。



〔正面から見た上越教育大学〕

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

・留学生一人ひとりのニーズを尊重しながら、日本語及び日本文化に関し、体験を通して理解を深めることとしています。

・留学生の興味・関心を考慮して、受入教員や関係教員の協力を得てカリキュラムを編成しています。

③ 受入定員

3名（大使館推薦2名、大学推薦1名）

上越市への経路



④ 受講希望者の資格、条件等

日本語・日本文化研修留学生となることを希望する者は、以下の条件を満たす者としします。

- a) 資格：来日時点で外国（日本以外）の大学の日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在籍する者。ただし、1年生は対象外。
- b) 日本語能力：日本語能力試験N2又はJ. TEST実用日本語検定C級に相当する日本語力を有する者。
- c) 日本語による授業を理解し、日本語の参考文献を読み、日本語でレポートを書き、口頭発表を行う能力のある者。

⑤ 達成目標

受入教員と日本語教員の指導のもとで研究を進め、一年間の研究成果を発表し、修了レポートを作成・提出します。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2024年10月上旬～ 2025年9月下旬
（在籍期間：2024年10月1日 ～ 2025年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

- 9月：渡日（下旬）
- 10月：10月入学留学生オリエンテーション
交通安全教室
大学祭参加
学長と入学留学生との懇談会
- 11月：J. TEST実用日本語検定受験
留学生が語る／留学生と語る会
世界を語ろう
- 12月：留学生との意見交換会
- 2月：短期外国人留学生の附属学校等授業参観
留学生スキーのつどい
- 3月：国際交流のつどい
- 4月：お花見会
4月入学留学生オリエンテーション
- 5月：学長と入学留学生との懇談会
- 7月：七夕茶会
- 8月：日本文化・歴史体験及び地域交流に関する研修
短期外国人留学生成果発表会
- 9月：短期外国人留学生修了証書授与式
帰国（中旬）

⑨ コースの修了要件

以下の修了要件を満たした者には、修了証書を授与します。

- 1) 学部開講科目の中から半期12科目（日本語補講3科目含む）以上受講し、単位を取得する。
- 2) 受入教員と日本語教員の指導のもとで進めた一年間の研究成果を発表し、修了レポートを提出する。
また、成績証明書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

必修科目・選択科目ともに、前期・後期各期15週開講します。授業はすべて日本語で行います。

入学後、以下の科目以外に希望する科目があれば、追加して受講することができます。受講科目については、受入教員と相談のうえ、決定します。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目・内容

学校教育学部開設科目：

- ・日本語・日本文化研究セミナーA/B

日本語補講科目：

- ・日本語文献講読A/B
- ・日本語レポート作成A/B
- ・日本語研究発表A/B

II) 選択科目・内容

学校教育学部開設科目：

- ・日本事情：
日本国憲法／日本史研究／法律学文献講読
- ・日本文化：
書の表現と文化／書写書道／彫刻表現 I
- ・日本の文学：
国文学講読B／国文学演習B
- ・日本の地理・歴史：
日本史研究A／世界史研究入門

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

学校参観

本学の附属小学校・中学校を始めとして学校参観を実施しています。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

- ・特別聴講学生として、一般学生とともに受講し、単位を取得することができます。
- ・日本語・日本文化研究セミナーA/Bでは、一般学生とともにゼミナールに所属し、学びます。

～ 日本文化・歴史体験に関する研修 ～



～ 留学生が語る／留学生と語る会 ～



⑪ 指導体制

- ・ 担当教員
受入教員が、留学生一人ひとりに、研究指導及び履修指導を行います。
- ・ 日本語指導
本学教員及び外部講師による日本語指導により、言語能力から生じる不安を取り除きます。
- ・ 担当事務
研究連携課国際交流・地域連携チームの職員が、日本での生活全般の相談に応じます。

～ 雪国スキー体験 ～



■ 宿 舎

キャンパス内の緑に囲まれた一画に、留学生及び外国人研究者と日本人学生との混住方式による国際学生宿舎があります。

留学生用は単身用居室15室、夫婦用居室3室を用意しています。

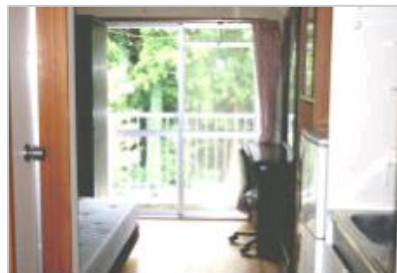
設備

単身室（宿舎費5,900円/月・共益費1,500円/月）
ミニキッチン、トイレ、給湯設備、冷暖房用空調設備、シングルベット、片袖机、回転椅子、書棚、洋服ダンス、吊り書棚、食器棚、冷蔵庫、電気スタンド

夫婦室（9,500円/月・共益費1,500円/月）
キッチン、ユニットバス、トイレ、給湯設備、冷暖房用空調設備、シングルベット2、片袖机、回転椅子、書棚、応接テーブル、応接イス、食卓テーブル、食卓イス、食器棚、整理ダンス、玄関収納庫、洗濯機、乾燥機、冷蔵庫、電気スタンド、クローク



[国際学生宿舎 外観]



[国際学生宿舎 室内]

■ 修了生へのフォローアップ

修了生に対し、本学が毎月配信している「国際交流ひろば」や「留学生ネットワーク」とおして情報提供を配信しています。

～ 短期留学生修了証書授与式 ～



■ 問合せ先

<担当部署>

上越教育大学

研究連携課 国際交流・地域連携チーム

住所：〒943-8512

新潟県上越市山屋敷町1番地

TEL : +81-25-521-3299 (直通)

FAX : +81-25-521-3621

Email : ryugaku@juen.ac.jp

<ウェブサイト>

上越教育大学ホームページ

<https://www.juen.ac.jp/> (日本語)

<https://www.juen.ac.jp/contents-e/index.html> (英語)

日研生コースガイド

<https://www.juen.ac.jp/050about/030internat/040recep>



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

お茶の水女子大学 (東京都)

小規模大学の特性を生かし、きめ細やかな学習指導や支援が充実

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

お茶の水女子大学は、1875年、国によって設立された日本最初の女性のための高等教育機関「東京女子師範学校」を前身としています。

すべての女性がその年齢・国籍等にかかわらず、個々人の尊厳と権利を保障され、自由に己の資質能力を開発し、知的欲求の促すままに自己自身の学びを進化させることを支援することを使命としています。

日本における女性教育の先達である本学は、国際的状況の中で、政治、経済、学術、文化をはじめ各界のオピニオンリーダーとなりうる女性を育成するプログラムを世界に示しています。

本学では、小規模大学の特性を生かし、教員一人あたりの学生数が14.85人と少ない環境で、きめ細かな学習指導や支援を受けることができます。

また、1対1で個人チューターに学修や日本での生活について相談できるほか、レポートや論文などの日本語添削サポートも提供しています。

2) 学生数等 (2023年5月1日現在)

学 部：文教育学部、理学部、生活科学部

(注) 2024年度に共創工学部新設

大学院：人間文化創成科学研究科

教員数：265名

学生数：学部生 正規2,039名

(正規15名、非正規61名)

大学院生 正規763名

(正規134名、非正規18名)

(注) カッコ内は留学生数

② 国際交流の実績

29の国・地域から228名の学部生、大学院生、研究生等が在籍し、勉学に励んでいます。

大学間交流協定校数：32ヶ国90校

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2023年：留学生数228名、日研生9名

2022年：留学生数208名、日研生4名

2021年：留学生数203名、日研生5名

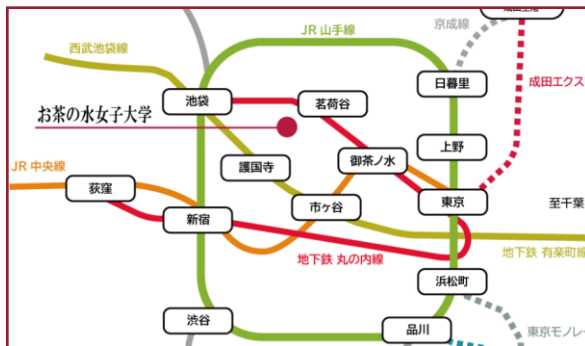
(注) 過去3年間、5月1日現在

日研生は当該年度10月受入数

④ 地域の特徴

文京区は、東京23区のほぼ中央に位置し、大学から池袋駅まで10分、東京駅まで20分で行けます。史跡や名所の多い歴史的な町であり、伝統的な大学や多くの学校のある町として知られています。

都内の主要駅へのアクセスが良い一方、みどり豊かで落ちついた住環境は、都内でも屈指のものとされています。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

日本事情・日本文化に関する研修を主とし、補助的に日本語能力の向上のための研修を行う。

② 研修・コースの特色

母国で基本的な日本語能力を習得した学生を対象とし、将来大学院で学ぶことも視野に入れて、アカデミックな日本語力の強化を行います。

日研生のみを対象としたオリエンテーション、週1回の特別クラス及び指導教員による定期的な面談など、きめ細かい指導が特色です。

③ 受入定員

12名 (大使館推薦6名、大学推薦6名)



④ 受講希望者の資格、条件等

成績優秀で、原則として日本語能力試験N2以上を保持している者。

⑤ 達成目標

1) 修了レポート完成

週1回の特別クラスで、1年かけて自身が興味を持つテーマについて学び、修了レポートを作成します。研究の立案から資料収集、分析方法や論文執筆という研究スキルを身につけることを目指します。アカデミックな日本語力と、研究に必要なリテラシー能力を伸ばします。自力で日本語の論文を理解し、専門的内容をアカデミックな文体で表現できるようになることが目標です。

2) 日本人学生と一緒に授業の履修

「日本語」「日本文化」いずれのコース希望も受け入れますが、専門的な「日本文化」については、日本人学生向けの科目で学ぶことになります。（外国人留学生特別科目は、日本文化の基礎的な内容が中心です）留学生と日本人学生の両方を対象にした科目も開講されています。世界各国からの留学生や日本人学生と共に、日本語や日本文化、世界の諸問題について多様な視点から学びます。



⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2024年9月末頃～2025年8月31日
（在籍期間：2024年10月1日～2025年8月31日）
修了式は8月中旬を予定。※原則出席必須

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月末頃～10月初旬： 渡日
10月： 授業開始・日研生オリエンテーション
11月： 大学祭

12月： ～～冬休み～～
1月： 日研生修了レポート中間発表会
2月： 授業終了（試験・レポート）
～～春休み～～
4月： 授業開始
7月： 日研生修了レポート報告会
授業終了（試験・レポート）
8月： 日研生修了式
8月下旬～8月末頃： 帰国

※この他、学生が企画する日研生旅行や、日本人学生と留学生が互いの言語や文化を教え合う言語交換プロジェクトもあります。

⑨ コースの修了要件

1) 日研生クラスへの出席（2回の発表会を含む）

2) 前期・後期それぞれにおける科目履修

前期（10月～3月）、後期（4月～8月）それぞれに必須科目の1コマ（2単位相当）を含めた16単位相当以上の授業を選択・履修し、週4日以上通学することが求められます。

3) 修了レポートの提出

研修終了時に修了レポートを提出します。そのために指導教員による個別指導も行われます。
※成績証明書が発行可能です。
※早期修了は、原則としてできません。



日本文化体験きもの教室の様子

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

小規模大学の特性を生かした、きめ細やかな学習指導や支援を行っています。指導教員による個別指導の機会が豊富に設けられており、授業内外での学修を全面的にサポートする体制になって

います。各自が選んだテーマに沿って1年かけて修了研究を行います。修了研究の成果は、報告書にまとめます。発表会も2回行われます。



2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（1コマ、90分/週・アカデミックジャパニーズ）

・日研生指導

週に一度日研生を対象としたクラスがあり、基本的なアカデミック・スタディ・スキルを学び、修了レポートの作成を目指します。

II) 選択科目（最低7コマ、10時間30分/週・内容は以下の通り）

・外国人留学生特別科目

日本語 I A/B～VA/B：（各学期5科目）

1科目（2単位）当たり22時間30分

総合的な日本語力を養います。少人数クラスが多く、発表やディスカッションの機会が豊富で、日本語の高い理解力と発信力が身につきます。

日本事情 I A/B ～VA/B（各学期5科目）

1科目（2単位）当たり22時間30分

日本の歴史・社会・文化について学びます。教室での学びだけではなく、東京の街に出て取り組む課題もあり、体験的に文化を理解できます。

上記とは別に、専門科目や特設日本語科目（会話、文法、読解、論文作法、漢字、日本語能力試験対策など）の授業も履修できます。少人数クラスであるため、発表の機会も多く、経験豊富な教師から丁寧なフィードバックを受けることができます。各自の学習段階に合わせて、確実にレベルアップする指導が受けられます。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

留学生向けの企画として、留学生と日本人学生との交流会、歌舞伎鑑賞教室、茶道教室、生け花教室、着付け教室等が実施されます。学内の附属小学校で児童生徒と交流する機会もあります。-020-

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

・日本人学生対象の一般科目

大学が提供する全科目の中から、各自の興味関心に合わせて授業を選択できます。一般科目を多く選択する留学生もいます。各自の希望に合わせた、自由な授業選択が可能です。

⑪ 指導体制

・指導教員

西坂祥平 助教（専門分野：日本語教育学）

・留学生日本語学習支援・交流室

国際教育センターで学習支援を受けることができます。大学院生の先輩が日本語チェックや学習アドバイスを行います。生活相談もできます。また、留学生のための交流企画も行っています。

・個人チューター

日研生一人一人に個人チューターが付きます。来日時の手続き、日ごろの勉強や生活に関する相談など、日本での生活を安心して送るためのサポートをします。良い友人になり、学内外で一緒に時間を過ごすペアも少なくありません。



カフェテリア



図書館

■宿 舎

名 称：音羽館(学生宿舎)
所 在 地：お茶の水女子大学キャンパス内
竣 工：2022年2月
食 堂：なし（学内の食堂は平日昼夜営業）
対 象 学 生：学部学生や留学生の単身者など
入居一時金：31,680円
毎月の寮費：59,900円
（内訳：賃料48,800円、共益費5,000円、保険料500円、インターネット使用料1,000円、水道・電気使用料4,500円 ※ガス使用料別途）
設 備：
・居室…14.5 m²（個室のみ）
洗面化粧台、ユニットシャワー、トイレ、ミニキッチン、冷蔵庫、エアコン、ベッド、机、衣類収納棚完備）
・共用部分…ラウンジ、宅配ボックス、ランドリー、談話室（学習室、各階に1室）、たたみの間、キッチンスタジオ、シアタールーム、ミーティングルーム、フィットネススタジオ

※入居一時金及び初月分の寮費について、クレジットカード払いによる前払いあり

※食事については、学内の食堂を利用する学生や、他の寮生と一緒に自炊を楽しむ学生もいます。



「安心・安全・快適」な音羽館の外観



←個室の間取り&パノラマ画像
360°ビュー
(室内が見られます。)

■修了生へのフォローアップ

本学での日研生プログラム修了後、本学大学院（日本語教育、ジェンダー研究等）で学ぶために再来日する学生がほぼ毎年います。本学でさらに専門的な勉強をしようと、再来日を目指す修了生には帰国後も相談に乗るなど、積極的に支援しています。



■問合せ先

<担当部署>

お茶の水女子大学国際課留学生担当

住所：〒112-8610
東京都文京区大塚2-1-1

TEL：+81-3-5978-5143（直通）
FAX：+81-3-5978-5951
Email：ryunai@cc.ocha.ac.jp

<ウェブサイト>

お茶の水女子大学国際教育センター：
www.cf.ocha.ac.jp/gec-in/
お茶の水女子大学留学生関連情報：
<https://www.ocha.ac.jp/intl/studyjp/index.html>



東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies

東京外国語大学 (東京都)

多言語・多文化キャンパスにおける充実した日本語教育

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史：東京外国語大学は、世界諸地域の言語・文化・社会及び国際関係を専門とする大学として、日本の多くの大学の中で独自の地位を確立している。

国際日本学部、言語文化学部、国際社会学部、大学院総合国際学研究科（博士前期・後期課程）、留学生日本語教育センター、アジア・アフリカ言語文化研究所において、世界のほぼすべての地域にわたる言語学、言語教育学、文学、歴史学、哲学・思想、文化人類学、社会学、政治学、経済学と幅広い分野の教育・研究が行われている。特に2019年4月開設の国際日本学部では、国際的な視野から日本を総合的に学ぶことができる。

本学の直接の前身である東京外国語学校（明治32年(1899)創立）もまた、海外に活躍する多くの人材を養成し、異文化の受容と外国語教育の向上・普及に大きく貢献してきた。その源は安政年間（「蕃書調所」）まで遡ることができる。

戦後「東京外国語大学」として新たに発足して以来、本学は「世界の言語とそれを基底とする文化一般につき、理論と実際にわたり研究教授し、国際的な活動をするために必要な高い教養を与え、言語を通して世界の諸地域に関する理解を深めることを目的とする。」の理念のもとに、国際社会の第一線で活躍する多数の有能な卒業生を社会に送り出している。

2) 教職員・学生数等（2023年5月1日現在）

学生数 国際日本学部 355名
言語文化学部1, 649名
国際社会学部1, 680名
大学院博士前期課程 315名
大学院博士後期課程 209名
教職員数 381名

② 国際交流の実績

本学の学生を世界に送り出すとともに、世界諸地域からの留学生を積極的に受け入れている。

・交流協定締結状況（2023年10月1日現在）

72か国・地域／239機関

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

1980年に日本で最初に日研生を受け入れた実績を持つ。

2023年：留学生数 687人、日本語・日本文化研修留学生 23人

2022年：留学生数 591人、日本語・日本文化研修留学生 24人

2021年：留学生数 591人、日本語・日本文化研修留学生 25人

④ 地域の特徴

東京西部の緑豊かな環境。新宿・渋谷へも電車で40分程度。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

「多言語・多文化環境における学び」および「日本語」を特色とする。科目履修については、アカデミックな日本語の能力を伸ばすための日本語科目及び、各自の専門・研究テーマに合わせた学部科目の履修が可能で、各学生の日本語のレベルに合わせた履修システムとなっている。学部科目については、日本語・日本語教育などの言語関連科目、日本文化・社会・歴史関連の科目などが履修できる。

③ 受入定員

24名（大使館推薦17名、大学推薦7名）

④ 受講希望者の資格、条件等

日本での1年間の勉強・研修に支障のない日本語運用力を持つこと。留学開始前に日本語・日本文化にかかわる興味のあるテーマを決め、1年間の研修修了時に、研修の成果となる修了レポートを執筆する意欲を持つこと。大学推薦は、JLPT N2以上、大使館推薦はJLPT N3以上が望ましい。

⑤ 達成目標

入学時にプレイスされた日本語レベルより上のレベルに到達し、各自の興味・関心に合わせたテーマで修了レポートを執筆する。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2024年10月上旬 ～ 2025年8月下旬

（在籍期間：2024年10月1日～2025年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬	渡日・オリエンテーション
10月上旬	秋学期授業開始
12月上旬	国際交流のタベ
1月中旬	秋学期授業終了
1月下旬～3月下旬	冬学期
4月上旬	春学期授業開始
7月中旬	春学期授業終了および修了式
8月	帰国（2025年は8月中）

⑨ コースの修了要件

所定の単位を履修し、修了レポートを提出すること。日本語のレベルにより、必修の履修科目と単位数は異なるが、半期7コマの授業を履修すること。修了要件を満たしたのものには修了証書を授与する。単位取得可能。成績証明書に基づく単位互換については出身大学の判断による。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

授業は秋学期・冬学期・春学期・夏学期の4タームの区分で開講され、主となる授業は秋学期、春学期である。学生の日本語レベルに応じて「全学日本語プログラム」（全7レベル）で日本語を履修するとともに「学部科目」を日本人学生やほかの留学生とともに履修する。各自の興味・関心に応じたテーマについての研究を行い、修了レポートを提出する。詳細は以下の通りである。

2) I 必須科目

- ・指導教員の下で研究を進め、修了レポートを執筆する。
- ・日本語: 400～700レベルは総合日本語(日本語レベルにより過当たりの授業数が2～5と異なる)を中心に、必要に応じて技能別科目を履修する。
- ・学部科目:
国際日本学部・言語文化学部・国際社会学部で開講されている科目の中から、各自の興味・関心及び日本語力に応じて履修する。(基本的には、日本語600レベル以上の学生のみ)
- ・修了レポートの内容
学生は各自関心のある分野についての研究を行い、国際日本学部の教員が指導に当たる。国際日本学部は、次の4領域を専門分野とする30名以上の教員を擁しているため、学生の関心に基づいた研究について、きめ細かく指導することが可能である。
 - ①日本の政治、経済、社会、歴史
 - ②日本文学、日本文化
 - ③日本語学
 - ④日本語教育学

2) II 選択科目

本学では、日本を総合的に学ぶ教養日本力科目が用意されており、それらを履修することにより、日本についてより深く学ぶことができる。

【授業科目及び授業時間数】 日本語

授業科目				時間数		
				秋 学期	春 学期	計
全学 日本語 プログラム	日本語中級 400	中級総合日本語		150	150	300
		技能別日本語	文法	30	30	60
			読解	30	30	60
			聴解	30	30	60
			文章表現	30	30	60
			口頭表現	30	30	60
	日本語中上級 500	中上級総合日本語		150	150	300
		技能別日本語	文法	30	30	60
			読解	30	30	60
			聴解	30	30	60
			文章表現	30	30	60
			口頭表現	30	30	60
	日本語上級1 600	上級1総合日本語		90	90	180
		技能別日本語	文法	30	30	60
			読解	30	30	60
			聴解	30	30	60
			時事	30	30	60
			文章表現	30	30	60
	口頭表現	30	30	60		
	日本語上級2 700	上級2総合日本語		60	60	120
		技能別日本語	文法	30	30	60
			読解	30	30	60
			聴解	30	30	60
			時事	30	30	60
			文章表現	30	30	60
			口頭表現	30	30	60
ビジネス			30	30	60	

3) 見学、地域交流等の体験

近隣小中学校との交流や留学生支援の会が行う日本文化体験教室など、地域交流や日本文化を体験し見聞を広める機会が用意されている。

4) 日本人学生との共修等の機会

国際日本学部の日本人学生は、留学生と共に学ぶことを通じて、日本を総合的に捉えることを目指している。学部の科目を履修することにより、このような日本人学生との共修が可能である。また、在校生をバディとしてマッチングするバディ制度により、本学正規生との交流も可能である。

⑪ 指導体制

国際日本学部の教員が責任をもって指導にあたる。

■宿 舎

本学敷地内に国際交流会館を設置しているが、室数が限られているため、必ずしも入居できるわけではない。入居できない場合は、学外のアパート等を紹介する。

・過去3年間の日研生の宿舎入居状況（各年度10月現在）

2023年度	民間アパート等	23名
2022年度	本学国際交流会館	23名
	民間アパート等	1名
2021年度	本学国際交流会館	25名

■修了生へのフォローアップ

修了生データベース構築がなされ、毎年更新している。修了生は卒業後、就職・大学院進学が主である。大学院進学のために再来日する日研生も多い。



国際日本学部教員



小学校訪問

着物の着付け、華道、茶道などの
日本文化体験をしました



国際交流のタペ



7月修了交換留学生及び日本語・日本文化研修留学生の修了式

■問合せ先

<担当部署>

東京外国語大学留学生課

住所 〒183-8534

東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学留学生課

Tel : +81-42-330-5184(直通)

Fax : +81-42-330-5189

E-mail : ryugakuseika@tufs.ac.jp

東京外国語大学のホームページアドレス

<http://www.tufs.ac.jp>

国際日本学部のホームページアドレス

<http://www.tufs.ac.jp/education/js/>

留学生日本語教育センターのホームページ
アドレス

<http://www.tufs.ac.jp/common/jlc/index.html>



東京学芸大学 (東京都)

留学生対象の授業のほか、教育学、人文・社会科学、自然科学、芸術、スポーツなどの科目が受講でき、附属学校との交流授業、伝統芸能のワークショップなどを通して、日本の社会や文化を学ぶことができます。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

東京学芸大学は、新宿から電車で30分ほどの距離にある東京都小金井市に位置し、緑豊かで静かな環境にあります。

1949年に4つの師範学校を統合して誕生し、全国 of 教育界に多くの人材を送り出してきました。

1988年、教員養成課程に加えて、新たに教養系を設置し、教育以外の分野でも社会に貢献する幅広い人材の育成に努めています。

1996年、教科教育学を中心とする教育研究者養成を目的とした大学院連合学校教育学研究科（博士課程）を設置しました。

1998年、留学生に対する予備教育を含めた日本語・日本理解教育、修学上・生活上の指導・助言、日本語・日本文化研修留学生や教員研修留学生の研修プログラム等の業務を行うため、留学生センターを設置しました。



キャンパスの風景

② 国際交流の実績

(2023年10月1日現在)

海外の大学との協定： 66校

留学生数： 173人

(うち、日本語・日本文化研修留学生 9人)

海外の協定校で学んでいる本学学生数： 38人

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数263人、日研生 9人

2022年：留学生数240人、日研生 9人

2021年：留学生数201人、日研生13人

④ 地域の特徴

小金井市は1958年10月に、東京都で10番目の市として誕生しました。都心から25kmという位置にあり、人口10万あまりの緑ゆたかで快適な生活のできる町です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

(a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

(1) 日本事情・日本文化に関する研修
日本理解に関する科目として「日本理解」や一般学生との協働学習を行う「多文化共修科目」等を受講し、日本の文化・社会に対する理解を深めます。

(2) 日本語能力の向上のための研修
日本語レベルに応じて必要な科目を受講し、日本語能力を高めます。

(3) 専門研究
研修生の希望、個人研究テーマ、日本語能力等を考慮して指導教員が認めた専門科目（一般学生対象授業）を受講します。

(4) 文化交流
本学の学生や地域住民との交流を深め、地域の文化活動など交流の場に積極的に参加します。たとえば、附属小学校との交流、伝統芸能のワークショップなどを行っています。

(5) 個人研究
指導教員のもとで自分の研究テーマについて研究し、その成果を、研修終了時までにレポートにまとめます。

③ 受入定員

25名（大使館推薦15名、大学推薦10名）

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語能力試験（JLPT）N2保持が望ましいです。

⑤ 達成目標

日本語を使用して、専門分野の資料を読んだり、レポートを書いたり、発表をしたりすることができるようになることが達成目標です。また、日本の文化について広く理解することも目標としています。修了レポートを作成し報告会で発表します。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2024年10月初旬～2025年8月上旬

修了式は8月初旬を予定（2023年は8月2日）

（在籍期間：2024年10月1日～2025年8月31日）

早期帰国は認めません。

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月～2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬～10月上旬：渡日（2023年は10月）

10月： オリエンテーション

秋学期授業開始

防災館見学

11月： 江戸東京たてもの園見学

図書館オリエンテーション

12月： 文楽鑑賞教室

附属小学校における交流

1月： 附属小学校における交流

研究テーマの構想発表

2月： 高校生との交流

4月： 春学期授業開始

5月： 中間発表会

6月： 歌舞伎鑑賞教室

7月： レポート提出

8月： 研究発表会、修了式

8月下旬：帰国（2023年は8月末）

⑨ コースの修了要件

下記の所定の科目を履修し、研究レポートを締め切りまでに提出して、その成果を指導教員が認めた留学生については、本学学長名において修了証書を授与します。

1) 必修科目…日研生特別演習（秋）、日研生

特別研究（春）の2科目

2) 選択必修科目…日本理解、多文化共修科目から3科目

3) 選択科目…日本語科目、学部開設科目

上記1)～3)から合わせて14科目以上履修

（毎学期7科目以上の履修が必要です）

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

（1）研修・コース科目の特徴

附属学校との交流授業を積極的に行っています。また、留学生対象の授業の他、教育学、人文・社会科学、自然科学、芸術、スポーツなどの科目が受講できます。伝統芸能のワークショップなど、多様な文化体験に参加できます。

（2）研修・コース開設科目

I) 必修科目

日研生特別演習（秋学期）……14週×100分

日研生特別研究（春学期）……14週×100分

特別演習は、レポート作成のための講義、テーマ・構想発表会、地域の見学や地域交流、日本文化体験の活動などを主に行います。

特別研究は、主に指導教員の元で、レポート作成の活動を行います。日本文化体験活動、中間発表会、最終発表会を行います。



淵江高校との交流

II) 選択科目

1) 日本理解に関する科目（選択必修）

…各科目 14週×100分

日本理解 A～H 8科目

A, B(教育), C(人文), D(アニメ), E(宗教), F(経済), G(自然), H(書道)

※ 留学生を対象にした日本語で行う科目。

多文化共修科目 A～D 4科目

※ 日本人一般学生と留学生の共修科目で日本語で行う科目。（詳細は⑩(4)）

2) 日本語科目（選択）…各科目 14週×100分

日本語（会話、講読、作文、文法、漢字など）

日本語特別演習（マンガで学ぶ日本語、ドラマで学ぶ日本語、ビジネス日本語、小説など）

3) 専門科目（選択）…各科目 14週×100分

学部開設科目（教育学、人文・社会科学、自然科学、芸術、スポーツなど）



日本科学未来館見学

(3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加できる科目及びその具体的な内容
必修の特別演習、特別研究で以下のような活動を行います。(予定)

- ・地域見学…江戸東京たてもの園、防災館、ビール工場見学、日本科学未来館など
- ・地域交流…附属小学校、都立高校との交流、
- ・日本文化体験…文楽鑑賞教室、相撲見学、歌舞伎鑑賞教室、貴井ばやし、和菓子ワークショップなど

(4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

多文化共修科目 A～D (日本語)

A「多文化社会の問題解決プロジェクト」

在日外国人問題、難民問題、セクシュアリマイノリティ、障がい者問題など広く多文化多様性の問題解決をめざすプロジェクト学習

B「多言語社会とコミュニケーション」

日本の少数言語(琉球諸語、アイヌ語、日本手話)、在日外国人(コリアン、ブラジル、難民の言語)、留学生の言語、日本の方言などを学びあいます。

C「世界の言語と文化」

世界の言語についてのプロジェクト学習

D「世界の民族と文化」

世界の民族音楽を実際に体験しながら学びます。

⑪ 指導体制

日研生は、国際交流/留学生センターの所属となります。国際交流/留学生センター所属の教員が指導教員として履修や研究の指導をします。

小西 円(2023年度日研生担当教員)、秋庭 裕子、岡 智之、許 夏玲、有澤 知乃、伊能 裕晃



研究レポート発表会の様子

■宿 舎

渡日時に入居できる宿舎は以下の単身室の宿舎となります。家族連れでの留学の場合は民間アパートを自分で探すことになります。

○宿舎名

東久留米国際学生宿舎：単身室16室

○宿舎費・設備・通学時間等

東久留米国際学生宿舎単身室：4,700円/月

通学時間：西武線約1時間

* 上記金額には光熱水費等は含まれません。

○宿舎の設備・備品

ベッド、机、椅子など



附属小学校での交流



江戸東京たてもの園見学

■修了生へのフォローアップ

フォローアップの実績

修了生が国費研究生としての留学などを希望する場合、日研生担当教員や元指導教員など留学生センター教員が相談に応じています。2016年度は1名、2017年度は1名、2021年度は1名の元日研生が国費留学生として本学に入学しています。

また、中国(北京)、韓国(ソウル)、タイ(バンコク)にて、修了生同窓会を開催しました。

東京学芸大学修了留学生ネットワーク

<https://www.facebook.com/GisecTokyoGakugeiUniversity>

■問合せ先

＜担当部署＞

東京学芸大学学務部 国際課 留学生支援係

住所：〒184-8501

東京都小金井市貫井北町 4-1-1

TEL： +81-42-329-7763 (直通)

FAX： +81-42-329-7765

Email： ryuugaku@u-gakugei.ac.jp

＜ウェブサイト＞

東京学芸大学ホームページ：

<https://www.u-gakugei.ac.jp>

東京学芸大学日研生ホームページ：

<https://www.u-gakugei.ac.jp/~gisec/program01/index.html>



一橋大学 (東京都)

日本語・日本文化はもちろん、学部ゼミナールで専門的に学べます。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

長い歴史と伝統を誇る(1875年創立)、日本で最も古い『人文社会科学の総合大学』です。伝統的な学問領域の研究だけでなく、新しい研究領域の開拓に取り組む教授陣を擁しています。また、自然環境に恵まれた美しいキャンパスを有しています。

学生数 (2023年5月現在)

商学部	1,244名
経済学部	1,191名
法学部	740名
社会学部	1,093名
ソーシャル・データサイエンス学部	67名
学部生合計	4,335名

経営管理研究科※	488名
商学研究科※	6名
経済学研究科	229名
法学研究科	410名
社会学研究科	343名
言語社会研究科	189名
ソーシャル・データサイエンス研究科	22名
国際・公共政策教育部	127名
国際企業戦略研究科※	24名
大学院生合計	1,838名

※2018年4月より商学研究科と国際企業戦略研究科を統合し経営管理研究科を設置。2017年度以前に入学した学生は商学研究科または国際企業戦略研究科として在籍。

② 国際交流の実績

大学間交流協定数: 170 (学術交流協定)
154 (学生交流協定)
※2023年5月現在

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2023年: 留学生数 901人、日研生 10人
2022年: 留学生数 809人、日研生 5人
2021年: 留学生数 742人、日研生 5人

④ 地域の特徴

JR国立駅から南へ真っすぐ伸びる大学通りは幅が約44メートルもあり、まちのメインストリートです。現在、その道の両側のグリーンベルトには、桜といちょうが交互に植えられ、春には桜の花びらのカーテンがまちをピンク色に染めて、秋にはいちょうの葉が黄金色の輝きを放ちます。この景色は、新東京百景にも選ばれています。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

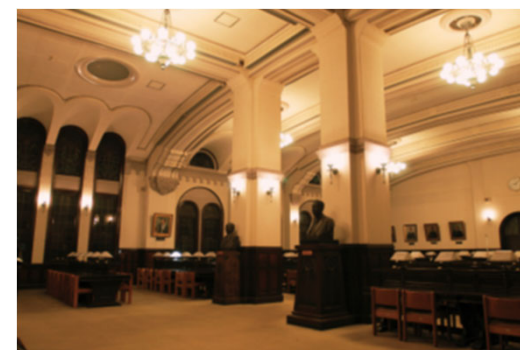
② 研修・コースの特色

- 希望者は、正規課程向けの学部ゼミナールに参加できます。
- 日本または日系企業に就職するための準備として、キャリア支援室のサービスを受けられます。

- 茶道、着物などの日本文化体験授業を実施予定です。
- 日本文化関連のクラブ活動等に参加することができます。
- 単位認定
全学共通教育科目・学部教育科目・国際交流科目の場合、各科目の合格要件を満たせば単位が認定されます。
成績は以下のとおり評価されます。
A+, A, B, C (合格) 又は F (不合格)

③ 受入定員

11名 (大使館推薦10名、大学推薦1名)



一橋大学図書館

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語力上級レベルで、大学学部3,4年次に在籍する学生を対象とします（原則として、日本語能力試験N1レベル相当以上）。

社会科学の基礎知識を持つ留学生にとって、日本語・日本文化だけでなく、幅広い知識が修得できるプログラムです。修了レポートのテーマとして、各自の掘り下げたいテーマを抱いて参加することが望ましいです。

⑤ 達成目標

15,000字程度の修了レポートを執筆し、その内容についてプレゼンテーションを行います。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2024年9月上旬～2025年8月中旬頃
（在籍期間：2024年9月14日～2025年8月31日予定）
※奨学金の支給は10月開始ですのでご留意ください。

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月～2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月上旬：渡日・入寮・オリエンテーション
9月中旬：秋冬学期授業開始
1月：秋冬学期授業終了
4月：春夏学期授業開始
7月末：春夏学期授業終了
7月：修了レポート発表会・修了式
8月中旬：退寮・帰国

⑨ コースの修了要件

1) 必修科目「Lecture for MEXT Japanese Studies Students I・II」（合計4単位）を修得すること。

2) 春夏学期及び秋冬学期それぞれにおいて12単位以上を履修すること。また、各学期において1週間に付き6コマ以上を履修すること。

3) 日研生修了レポートを作成すること。

成績証明書は、各学期の成績発表日以降に発行することが可能です。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴
日本語力を高め、日本研究を進めるための手厚い指導が受けられます。

2) 研修・コース開設科目

●必修科目

Lecture for MEXT Japanese Studies Students I・II
（日研生ゼミナール、2コマ4単位）

日研生対象。体験授業のほか、日研レポート作成に向け、討論形式の授業を行います。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

Explore Japan（工場・企業等見学）、着物体験、
鎌倉ツアー、アート探検&マンガ・ワークショップ

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本語、日本文化、日本史等を正規学部生と共に学べる科目

●全学共通教育科目

日本語研究入門、日本文化論、日本文学 等

●学部教育科目

社会と文化、日本社会史総論 等

●国際交流科目

Japanese Management, Japanese Art etc.

ゼミナールへの参加も可能です。

●学部ゼミナール（選択）

正規学部生とともに学ぶ学部ゼミナール

●如水ゼミ

一橋大学を卒業し、各分野で活躍するビジネスリーダーを講師とする授業

各科目のシラバスはオンラインで公開されています。

<https://syllabus.cels.hit-u.ac.jp/>

5) その他の講義、選択科目等

日本語教育科目（選択、レベル別）

●一般日本語科目：速読、学術文章表現、

学術口頭表現、
近代文語文講読 等

●専門日本語科目：経済の日本語上級、

法の日本語 等

●日本事情科目：外国人留学生のための日本事情

⑪ 指導体制

国際教育交流センター日本語教育担当教員が責任をもって指導し、また、生活面は国際教育交流センター留学生相談部門教員が担当します。
なお、学部ゼミナールに所属し専門科目教員の指導を受けることができる場合もあります。
(受け入れ責任者 国際教育交流センター長)

<https://international.hit-u.ac.jp/cgee/advising/>



修了式にて



クラブ活動：弓道部にて

■宿 舎

日本語・日本文化研修留学生は大学宿舎に優先的に入居できます。小平にある一橋大学国際学生宿舎では、日本人・留学生が一緒に生活しています。

国際学生宿舎

〒187-0045

東京都小平市学園西町1-29-1 (小平キャンパス内)



一橋大学国際学生宿舎



国際学生宿舎で行われた
ウェルカムパーティー

■修了生へのフォローアップ

日本語・日本文化研修留学生データベースに修了者の連絡先等を蓄積し、ネットワーク構築を図っています。また、コース修了後でも、成績証明書等の発行が可能です。



フィールドワーク
(鎌倉ツアー)

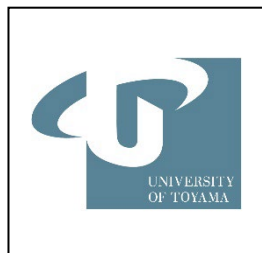
■問合せ先

<担当部署>
一橋大学学務部教務課 (教務第四係)

住所： 〒186-8601
東京都国立市中2-1

TEL： +81-42-580-8163 (直通)
FAX： +81-42-580-8105
Email： edu-gs.g3@ad.hit-u.ac.jp

<ウェブサイト>
一橋大学国際教育交流センターホームページ
<https://international.hit-u.ac.jp/>
一橋大学ホームページ
<http://www.hit-u.ac.jp/index.html>



富山大学 (富山県)

一人ひとりにあったカリキュラム, 日本人とともに学ぶ専門科目。

■大学紹介

① 大学の特徴及び概要

本学は、2005年10月に富山大学（1949年設立）、富山医科薬科大学（1975年設立）及び高岡短期大学（1983年設立）の3大学が統合した、幅広く豊かな教育・研究施設を有する国立の総合大学である。2023年5月現在、学生数9,208人（学部生及び大学院生）である。また、学術交流協定を32か国・地域（アメリカ合衆国、イギリス、エジプト・アラブ共和国、オーストラリア、タイ王国、大韓民国、中華人民共和国、マレーシア、ロシア連邦など）140機関と結び、積極的に留学生を迎え入れており、国際機構を中心に受入れ体制の整備も進んでいる。

学部：人文学部、教育学部、経済学部、理学部、医学部、薬学部、工学部、芸術文化学部、都市デザイン学部
大学院：人文社会芸術総合研究科、総合医薬学研究科、理工学研究科、持続可能社会創生学環、医薬理工学環、生命融合科学教育部、医学薬学教育部、理工学教育部、教職実践開発研究科

② 国際交流の実績

大学間交流協定校：19か国・地域42機関
(2023年5月現在)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数294人、日研生5人
2022年：留学生数266人、日研生6人
2021年：留学生数297人、日研生5人

④ 地域の特徴

富山県は、3000m級の北アルプス連峰を望み、日本海に面する自然に恵まれたところである。地理的には日本のほぼ中央に位置し、四季の移り変わりがはっきりしており、冬の雪景色も美しい。世界遺産「五箇山」の集落、全国的に有名な民謡「越中おわら節」など興味深い文化を育む場所でもある。

富山大学のある富山市は県庁所在地であり、人口約41万人をかかえる近代的な都市である。北陸新幹線により、東京へは約2時間で移動が可能である。また、市内には富山空港（東京まで約1時間）がある。水と空気と海産物がおおいしく、文化的施設の整っている便利などとして、全国的に住みやすい街の最上位にあげられている。



富山大学
(五福キャンパス)

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修
日本事情・日本文化に関する研修を主とし、補助的に日本語能力の向上のための研修を行う。
b) 主に日本語能力の向上のための研修
日本語能力の向上のための研修を主とし、補助的な日本事情・日本文化に関する研修を行う。

② 研修・コースの特徴

留学生を対象とした日本語・日本文化に関する授業科目と、人文学部、教育学部、経済学部で開講されている幅広い日本語・日本文化に関する専門科目の中から、各自の興味とレベルにあわせて授業科目を履修する。それと同時に、指導教員（人文学部又は教育学部）からの個人指導を随時受ける。個人指導の中で各々に研究課題を定め、修了レポートにまとめる。

③ 受入定員

8名（大使館推薦4名、大学推薦4名）
(人文学部4名、教育学部4名)
*各学部にも所属する。

④ 受講希望者の資格、条件等

このコースを受講希望する者は、以下の要件を満たす者とする。

(学歴)

渡日及び帰国時点で外国（日本国以外）の大学の学部にて在学し、日本語・日本文化に関する分野を専攻している者

(日本語能力)

国際交流基金及び日本国際教育支援協会による日本語能力試験N3以上の日本語能力を有する者
あるいは、これに相当する学習歴等を有する者

⑤ 達成目標

- 各自が立てたカリキュラムを履修し、研究計画を進め、日本語で修了レポートを完成させる。
- ①a)は必須、①b)は選択
- 国際交流基金及び日本国際教育支援協会による日本語能力試験N1相当の日本語能力を身につける。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2024年9月下旬 ～ 2025年8月下旬
（在籍期間：2024年10月1日～2025年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日
（2023年は9月25日～27日）

10月～8月：見学旅行
（日本の文化や歴史を学ぶ機会）
日本人学生による支援交流活動
（個別学習支援・交流会・パーティーなど）

この他にも地域の協力を得て、地域の人々との交流の機会も提供されている。（国際交流フェスティバル、エクスカッション、小学校訪問など）

8月下旬：帰国（2023年は8月28日～31日）

9月：修了証交付

⑨ コースの修了要件

- 1) 所定の時間数（秋期・春期各240時間以上、合計480時間以上）を履修し合格しているか、修了レポートを提出しているか等を当該組織が判定の上、修了証を交付する。
- 2) 合格した科目について、総合日本語コースは履修証明書、教養教育科目及び専門科目は成績証明書を発行する。
- 3) 指導教員（人文学部又は教育学部）による個人指導の中で各々の留学生の研究課題を定め、その結果を日本語で修了レポートにまとめ提出させる。
ただし、①b)の学生は免除されることがある。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

各自の関心とレベルにより立てた個別カリキュラムをもとに履修し、研究計画を進め、日本語で修了レポートを完成させる。
授業で使用する言語は日本語である。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（コマ数、時間数）・内容

本大学の日研究生プログラムは、各々のレベルに沿ったカリキュラムを履修することになっているので、必須科目は設けていない。

II) 選択科目（コマ数、時間数）・内容

[a] 日本語・日本文化に関する授業科（2023年度現在）
最新の情報はホームページでご確認ください。

総合日本語コース（上級）			総合日本語コース（中級）		
科目名	授業時間数		科目名	授業時間数	
	秋	春		秋	春
読解C	60	30	文法・表現B	60	60
文法C	60	60	文法・読解Ba	60	60
作文C	30	－	文法・読解Bb	60	60
聴解C	30	30	作文B	－	30
会話C	30	30	聴解・会話B	30	30
漢字C	30	30	漢字B	30	30
表現技術C	－	30			
日本文化C	30	30			

[b] 教養教育科目（外国人留学生用）

科目名	授業時間数	
	秋	春
日本語	60	60
日本事情	30	30
異文化理解	－	30

[c] 専門科目（正規学生用）

各学部で開講される幅広い専門科目より授業科目を選択する。以下に各学部の日本語・日本文化に関連する科目のある専門分野を紹介する。

<人文学部>

日本語・日本文化に関する分野：
人間学、日本史、人文地理学、文化人類学、国際関係論、言語学、日本語学、日本文学など
（*詳しくは人文学部ウェブサイト参照）
<https://www.hmt.u-toyama.ac.jp/>

<教育学部>

日本語・日本文化に関する分野：
教育学、日本語学、日本文学、人文地理学、日本史、福祉、政治学、芸術、スポーツなど
（*詳しくは教育学部ウェブサイト参照）
<http://www.edu.u-toyama.ac.jp/>

<その他>

日本語・日本文化に関連のある経済学部授業（経済学、経営学、経営法学）や教養教育科目も履修できる。

* 専門科目及び「日本語」「日本事情」「異文化理解」は、Webシラバス（授業案内）に掲載。
<http://syllabus.adm.u-toyama.ac.jp/syllabus/>

・ 総合日本語コース

<http://www.ier.u-toyama.ac.jp/program/timetable.html>



日本人学生主催
「ウェルカムパーティ」



日本事情 「書道」



見学旅行

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加できる科目及びその具体的な内容

なし。(ただし、見学、地域交流等は前述の⑧「研修・年間スケジュール」で体験することができる。)

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本語・日本文化に関する、より専門性の高い学部専門科目を日本人の学生と一緒に受ける。

⑩ 指導体制

留学生の志望する専攻分野の指導教員と、学部の留学生担当教員及び国際機構教員が協力して、学業及び生活面の個別指導を行う。

■宿 舎

大学には、国際交流会館がありますが、部屋数に限りがあります。国際交流会館に入居できない場合は、大学が宿舎を紹介します。(大学の周辺にはアパートがたくさんあります。)

・国際交流会館(五福)の概要

部 屋 数 : 単身室 34室

設備備品 : 電磁調理器付キッチン、バス、
トイレ、エアコン、ベッド、机、
いす、冷蔵庫など

その他設備 : 居室でのインターネット接続が可能(有料)



五福国際交流会館

■修了生へのフォローアップ

・富山大学日研究生修了後のキャリアパス(一例)

☆母国の大学で日本語を教える。

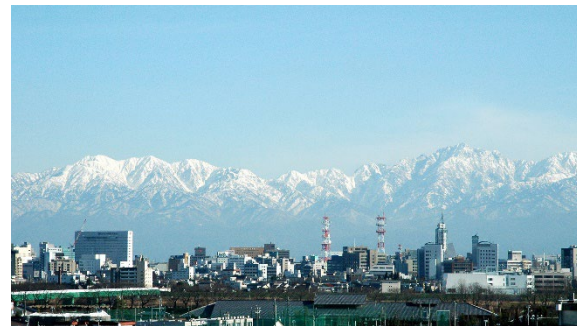
☆JETプログラム国際交流員として日本で働く。

☆富山大学大学院やその他の日本の大学院に進学。

☆日本企業(母国・日本国内)で働く。

・修了後のネットワーク

☆Facebookによって近況を報告している。



大学から見た立山連峰

■問合せ先

<担当部署>

富山大学学務部国際課

住所 : 〒930-8555

富山県富山市五福3190

TEL : +81-76-445-6105 (直通)

FAX : +81-76-445-6039

Email : ryugaku@adm.u-toyama.ac.jp

<ウェブサイト>

富山大学ホームページ

<https://www.u-toyama.ac.jp/>

富山大学国際機構ホームページ

<http://www.ier.u-toyama.ac.jp/>

富山大学国際機構日本語プログラム

<http://www.ier.u-toyama.ac.jp/program/course.html>



金沢大学 (石川県)

修了研究を通じて大学院進学を前提とした研究能力を習得します。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

金沢大学は、1862年の加賀藩種痘所を源流とし、1949年に新制の総合大学として設立されました。現在 4学域、21学類 (1)融合学域：先導学類、観光デザイン学類、スマート創成科学類 (2)人間社会学域：人文学類、法学類、経済学類、学校教育学類、地域創造学類、国際学類、(3)理工学域：数物科学類、物質化学類、機械工学類、フロンティア工学類、電子情報通信学類、地球社会基盤学類、生命理工学類 (4)医薬保健学域：医学類、薬学類、医薬科学類、保健学類、及び、7研究科 (人間社会環境研究科、自然科学研究科、医薬保健学総合研究科、先進予防医学研究科、法学研究科、教職実践研究科、新学術創成研究科)から構成されている総合大学として、幅広い分野での教育・研究活動の拠点となっています。金沢大学は、全国の大学に先駆けて、1956年から外国の大学との交流協定を締結して、学術文化の国際交流並びに、留学生交流を推進してきました。

2) 教員・学生数等 (2023年5月1日現在)

【教員数】1,323名、【学生数】10,227名 (学域・学部生：7,855名、大学院生：2,372名、その他、非正規生：259名)

② 国際交流の実績 (2023年5月1日現在)

交流協定校数：320機関 (61ヶ国、1地域)
大学間交流協定：227機関 (55ヶ国、1地域)
部局間交流協定：93機関 (29ヶ国、1地域)
留学生在籍数：794名

日本語・日本文化研修生合計受け入れ数：
373名 (令和5年度受入れの29期生を含みます)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生 (日研生) の受入れ実績

	受入れ実数
2023年度	留学生数794名、日研生10名
2022年度	留学生数643名、日研生9名
2021年度	留学生数636名、日研生8名

④ 地域の特色

金沢市は古くからの城下町で、今まで大きな災害に遭わなかったため、昔の建物などが多く残っています。伝統工芸、古典芸能の盛んな、文化の香り高い日本的な雰囲気有し、四季の移ろいを実感できる街です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

金沢大学日本語・日本文化研修プログラムは参加学生の日本語能力ならびに研究能力の向上、及び日本社会・文化に対する理解を促進することを目的とした全学習を日本語で行う1年間のプログラムです。

③ 受入定員

15名 (大使館推薦：5名、大学推薦：10名)

④ 受講希望者の資格、条件等

本プログラムの受講を出願する者は、以下の要件を満たす者とします。

日本語能力：日常生活に必要な日本語能力 (日本語能力試験N2合格程度) を有し、平易な文章の読み書きができる者

所属学部・学科：海外の大学において、日本語・日本文化に関する分野を専攻している者

学年：海外の大学において3,4年次に在学中の者

学習姿勢：日本研究に対し意欲的であり、1年間積極的な姿勢で本コースの学習に専念する意志を有する者

⑤ 達成目標

修了時点で日本語能力検定N1レベルの日本語力、ならびに大学院進学に必要な研究能力の習得を目指します。

⑥ 研修期間 (在籍期間)

2024年9月下旬～2025年8月下旬
(2024年10月1日～2025年8月31日)

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月～2025年8月



⑧ 研修・年間スケジュール

授業期間

10月～2月(秋学期)

4月～8月(春学期)

修了研究(発表練習, 論文作成) 期間

8月1日～8月31日

9月下旬	渡日
9月下旬	開講式、オリエンテーション
11月または12月	留学生懇談会
12月	修了研究構想発表会
4月	修了研究中間発表合宿
8月初旬	修了研究発表会
8月中旬	論文提出締切
8月下旬	修了式
8月下旬	帰国



授業の様子

⑨ コースの修了要件

必修授業科目の履修・合格, 並びにプログラム終了時の修了研究の口頭発表及び論文提出が修了要件です。本研修プログラム修了者に修了証書を授与します。また, 履修した授業科目, 成績評価及び単位数が記載された成績証明書を交付します。本プログラムの構成は次のとおりです。なお, 1科目(2単位)は15コマ(1回90分)の講義から成ります。

必修授業科目	単位数	
	秋学期	春学期
日本語	20	
日本文化演習Ⅰ	2	2
日本文化演習Ⅱ	2	2
日本文化・社会学習	2	選択
調査実習	2	選択
修了研究演習	2	2
修了研究論文及び研究発表	-	4
合計	40	



能登旅行

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

本プログラムでは, 修了研究論文を最も重要なカリキュラムとして位置付けています。修了時点で, 参加学生は大学院に進学するために必要な研究能力を身につけることを目指します。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

「日本語科目」(秋・春学期 合計150コマ)
レベル別日本語、漢字及び技能別日本語の授業

「日本文化演習Ⅰ」(秋・春学期 各15コマ)
学内外の専門家による日本語・日本文化についての講義

「日本文化演習Ⅱ」(秋・春学期 各15コマ)
演習形式による発表・ディスカッション

「日本文化・社会学習」(秋学期 15コマ、春学期は選択)
金沢の豊かな伝統文化の体験、および現代日本社会についての学び

「調査実習」(秋学期 15コマ、春学期は選択)
研究方法論や日本語によるプレゼンテーションスキルの習得

「修了研究演習」(秋・春学期 各15コマ)
研究方法の習得

「修了研究論文及び研究発表」(春学期 30コマ)
口頭研究発表、修了研究論文の提出

II) 選択科目

正規授業科目の履修(秋・春学期)
学部正規生向けに開講している一般授業科目の履修

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

「伝統工芸と職人の技」
北陸地域の漆工芸や和紙を鑑賞しながら、職人の技と精神を実体験します。

「現代アートとデザイン」
ワークショップやアーティストとの対話、21世紀美術館見学などを通じて、受講生の金沢の現代アートとデザインに関する理解を深めます。

「日本の社会と伝統文化」
金沢の伝統美術・工芸の文化体験を通じ、何百年もの間、匠達の手によって代々継承されてきた技能の一端を垣間見ることで、日本文化に対する多角的な観点を形成します。

「ユネスコジオパークとエコパーク」
白山麓の地域をフィールドにし、地域の人々の伝統的な生活様式を体験したり、地域課題や地域再生に向けての様々な取り組みを紹介します。

「サービス業や福祉施設にみるおもてなしの心」
金沢の料亭や保育園、高齢者介護福祉施設などを訪問し、その業務の一部を学生にも体験してもらいます。

「日本と金沢の建築・都市、これまでとこれから」
金沢をはじめ日本の建築とまち、人の営みとまちの関連性について理解を深め、建築・都市と文化・経済・歴史の相互関係を理解します。



加賀友禅体験

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

「調査実習」

日本人学生と合同で小グループを形成し、比較文化的な観点から日本社会・文化についての合同調査・研究を行います。

「日本文化演習Ⅱ」

この科目は日本文化演習Ⅰで扱った各テーマに関して、日本人学生も交えて演習形式による発表・ディスカッションを行います。

⑪ 指導体制

指導教員：山本 洋

(国際機構・教授、専門：歴史学、文学、留学生教育)

本プログラムの参加学生は国際機構に所属し、プログラム担当教員が指導教員として学生の学業・生活指導に当たります。研究指導、発表及び論文作成指導を定期的に個別・全体で実施します。なお、様々な専攻の学生の受入を可能にするために、研究指導を行う際に、人間社会学域等のその専門に応じた教員の協力を得ることもあります。日本語担当教員及び日本文化科目の講義担当の学内教員の合計数は約30名にも上ります。

■宿 舎

本プログラムの参加学生は以下のいずれかの宿舎に入居できます。

1) 金沢大学国際交流会館

(キャンパス内にある金沢大学の留学生及び外国人研究者用の居住施設。単身者に限ります)

寄宿料、光熱水費：月額約3万円

2) 金沢大学学生留学生宿舎「先魁」

(キャンパス内にある金沢大学の学生及び留学生及の居住施設。単身者に限ります)

寄宿料、光熱水費：月額約3万円

3) 金沢大学学生留学生宿舎「北渚」

(キャンパス内にある金沢大学の学生及び留学生及の居住施設。単身者に限ります)

寄宿料、光熱水費：月額約3万8千円

■修了生へのフォローアップ

本プログラムの修了生は、所属大学に戻り学位を取得後、大半が大学院へ進学します。さらに大学院進学者の約半数程度は、本学もしくは日本国内の他大学の大学院へ進学しています。その他、日本で日本企業に就職したり、母国で日系企業に就職するなど、ほとんどの修了生が日本とかかわりのある仕事に就いています。

■問合せ先

<担当部署>

金沢大学国際部留学企画課留学支援係

〒920-1192 石川県金沢市角間町

TEL：+81-76-264-5130

FAX：+81-76-234-4043

E-mail：st-exch@adm.kanazawa-u.ac.jp

<ウェブサイト>

金沢大学国際機構：

<http://kuglobal.w3.kanazawa-u.ac.jp/sie/>

日研ホームページ：

<http://kuglobal.w3.kanazawa-u.ac.jp/sie/program/nikken/>

金沢大学：

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

<担当教員連絡先>

山本 洋 教授

E-mail：yama@staff.kanazawa-u.ac.jp

福井大学 (福井県)

充実した個別指導と学生のニーズに即したカリキュラム

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 概要

福井大学は、教育学部、医学部、工学部、国際地域学部の4学部、及び大学院福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科、大学院医学系研究科、大学院工学研究科、大学院国際地域マネジメント研究科の4研究科からなる。



2) 教員・学生数 (2023年5月時点)

学生数 (正規生): 学部生 4,022名
大学院生 981名
教員数: 617名

② 国際交流の実績

留学生在籍数: 163名 (26カ国・地域)
学術交流協定数: 97 (大学間)、66 (部局間)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生 (日研生) の受入れ実績

2023年: 留学生数163人、日研生1人
2022年: 留学生数131人、日研生1人
2021年: 留学生数140人、日研生1人

④ 地域の特徴

福井市は、日本のほぼ中央に位置し、美しい自然と豊かな文化遺産に恵まれたところである。日本海に面し、古くは大陸諸国と都を結ぶ玄関口として重要な位置を占め、その長い歴史と伝統、そして四季折々の変化に富んだ美しい自然は、日本の典型的な風情を漂わせている。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

(b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

- ・主に日本語教育科目を履修し、日本語能力を向上させ、日本文化について理解を深める。
- ・本学の他の留学生や日本人学生と一緒に共通教育科目及び専門教育科目を履修し、単位修得を目指す。
- ・授業科目: 日本語・日本文化研修留学生のための特別な授業科目はない。
- ・履修科目については、単位修得証明書を発行する。
- ・修了要件を満たした場合、修了証書を発行する。

③ 受入定員

4名 (大使館推薦3名、大学推薦1名)

④ 受講希望者の資格、条件等

- このコースを受講希望するには、以下の条件を満たすことが望ましい。
- ・日本語能力検定試験N2以上。
 - ・日本語・日本文化・教育などに関心があり、関心のある分野での研究学習歴があること。

⑤ 達成目標

プロジェクトワークやプレゼンテーションなど実践的な活動を通して日本語能力を向上させるとともに、自身の考えや学習の成果について発信することができる。

⑥ 研修期間 (在籍期間)

研修期間: 2024年9月下旬～2025年9月下旬
在籍期間: (2024年10月1日～2025年9月30日)

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月～2025年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬 渡日/オリエンテーション
10月1日 後期 (秋学期) 授業開始
1月 留学生との交歓会
1～2月 留学生向けスキー旅行
4月上旬 前期 (春学期) 授業開始
5月中旬 大学祭
8月 サマーキャンプ
9月上旬 修了判定
9月中旬 修了式
9月下旬 帰国



スキー旅行



高須町での稲刈り

その他、各種学生イベントを実施している。また、地方自治体や民間団体主催の見学会・交流活動等も随時実施されている。

- ・着付け・茶道体験
- ・能楽体験講座
- ・田植え・稲刈り体験
- ・収穫祭等

⑨ コースの修了要件

- ・下記⑩の掲載科目から11科目かつ合計20単位以上を修得すること。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

授業は原則として、前期・後期各15週開講する。

以下の科目から、必ず各学期7科目以上履修すること。

各科目の内容は変更となる場合がある。

2) 研修・コース開設科目

Ⅰ) 必修科目・内容

必修科目

2科目4単位修得すること。（各2単位/30時間/科目）

【留学生のためのプロジェクトワークⅠ（上級）（春学期）】

日本語によるインタビュー活動を日本人学生や地域の人を対象に行う。この活動を通じて、話す、聞く、のような日本語能力を伸ばすだけでなく、日本や日本人に対する理解を深めることを目指す。

【留学生のためのプロジェクトワークⅡ（上級）（秋学期）】

グループで取材に行き、それを新聞の形にまとめる。その活動を通じて、日本語による情報収集を行う技術を身につけたり、わかりやすい日本語で情報を発信したりする。自分の興味のあることや独自の視点を掘り下げることで、それらについて理解を深める。さらに、ほかの学生と一つのことについて話し合い、一緒に活動することによって、お互いの見方を知り、コミュニケーション能力を磨く。



「留学生のためのプロジェクトワークⅠ」
インタビューの成果発表会

選択必修科目・内容（日本語科目）

日本語プレースメントテストの結果に基づき、日本語レベルに応じて選択すること。以下の科目から、3科目3単位以上修得すること。（各1単位/30時間/科目）

【日本語A（中上級）（春学期）】

内容を整理しながら話したり、相手を意識して伝えることを目指し、様々なテーマ、状況を設定して、話す練習をする。さらに、相手の話を整理しながら聞き、それに適切な応答ができるようになる練習も行う。

【日本語B（中上級）（秋学期）】

依頼、許可など、それぞれの場面で、相手に応じた表現を使って、相手との関係を維持し、目的を達成できるようにする。

【日本語C（中上級）（春学期）】

大学生活に必要なメールやレポートの書き方の基礎を学ぶ。最初の2、3週間で日本語でのメールの書き方を学び、その後、レポートを書くために必要な、客観的な文章の書き方、根拠の示し方、意見の述べ方などを学ぶ。

【日本語D（中上級）（秋学期）】

論理的な文章の書き方やレポート作成に必要な知識や技術を学ぶことを目的とする。具体的な文章例を通して理解を深め、練習や課題を通して書く能力の向上をめざす。

【日本語E（上級）（春学期）】

フォーマルな場面の議論において、正確に自分の考えや意見を表現し、考えと考えの間の関係を明確にしながら、活発な議論に参加できるようになる。その場にふさわしい丁寧さでコミュニケーションができる。

【日本語F（上級）（秋学期）】

講義やゼミなどで自分の意見、主張等をプレゼンテーションソフトを用いながら、わかりやすい日本語で論理的に示すことができるようになるための練習を行う。

【日本語G（上級）（春学期）】

長く複雑な文章を繰り返し読むことにより、その内容を詳細に理解できるようになる。また、補助的な視点、理由、関連する事例を詳細に加えて、特定の視点からの論を展開し、ある程度の長さの文が書けるようになる。

【日本語H（上級）（秋学期）】

日本語の一般書を読んで、その内容をレジュメの形にまとめて、わかりやすく他者に報告する。それをもとに話し合いながら内容についての理解を深め、その上で自分の意見をミニレポートとしてまとめる。学期の最後には総まとめのレポートを執筆する。

選択必須科目・内容（共通教育科目）

以下の科目から、2科目4単位以上修得すること。

（各2単位/30時間/科目）

【日本事情（春学期/秋学期）】

福井の企業・産業、キャリア支援、学校教育、言語（方言）などさまざまな分野について専門家の講義を聞き、現在の福井について理解を深める。

【日本の文化（春学期/秋学期）】

日本や福井の文化を知るために、日本の食文化や茶道などのテーマごとに、日本語による講義で知識を得た後、福井県内にある施設を訪問したり、体験学習をするなどの校外学習を行う。知識と体験を通して、日本の文化について理解を深めていく。



「日本の文化」愛宕坂茶道美術館での茶道体験

【異文化コミュニケーション入門（秋学期）】

【多文化共生の取組と課題（春学期）】

日本人学生と留学生の共修授業。国境を越えて多面的な交流が進むグローバル化時代には、異なる価値観や世界観を互いに理解し、認め合い、互いが協力して諸問題を解決し、仕事を組み立てられる人材が求められる。そのことを、グループによる課題作成を通して学ぶ。

選択必修科目・内容（専門科目）

所属学部の特設科目から各学期2科目選択して修得すること。

II) 選択科目・内容

選択科目（共通教育科目・専門科目）

以上の科目に加え、希望によりその他の共通教育科目及び他学部の特設科目の中から適宜履修できる。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

上記の科目のうち「日本事情」及び「日本の文化」が該当。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容
上記の科目のうち、「異文化コミュニケーション入門」及び「多文化共生の取組と課題」が該当。

⑪ 指導体制

- 1) 語学センター日本語教育部 プログラム担当
桑原 陽子（語学センター 准教授）
佐藤 綾（語学センター 准教授）



若狭塗り箸
研ぎ出し体験



三方五湖

2) サポート体制

チューター：日本人学生や先輩留学生が、渡日当初種々の手続きの手助けや、キャンパス内の案内等、身近な相談相手となり留学生をサポートする。

U-PASS (University Peer Academic Support Service) :
学生チューターによる日本語学習サポートが受けられる。



U-PASSでの
指導風景

■宿 舎

本プログラムの学生は以下のいずれかの部屋に入居することができる。

○入居期間：1年間

○入寮費： 20,000円

○共益費： 3,000円/月

（水道光熱費は別途）

（インターネットは別途契約）

【福井大学留学生会館】

・居室A（寄宿料：14,600円/月）

・居室B（寄宿料：17,400円/月）

【福井大学牧島ハウス】

・単身室（寄宿料：11,000円/月）

○宿舎設備・備品：ミニキッチン、ユニットバス、
トイレ、机、イス、ベッド、冷蔵庫、本棚、
スタンド、エアコン等

○共用設備：洗濯機、乾燥機（各1回100円）

○宿舎は自分の居室を含め全館禁煙



牧島ハウス



宿舎周辺の生活情報・通学時間

留学生会館からキャンパスまで
徒歩7分。牧島ハウスはキャンパス
内にある。最寄りの電車站までは
徒歩3分。周辺にはスーパーや
コンビニ、銀行、郵便局などが
ある。



■修了生へのフォローアップ

1) キャリア支援

プログラム修了後に日本企業または日系企業への就職を希望する学生に対し、留学生向け企業説明会やビジネス日本語講座等、様々なイベントを周知している。また、インターンシップを希望する学生には、本学のキャリア支援課を紹介するなど個別に相談に応じている。

2) ネットワーキング

本学では、留学生同窓会をアジアを中心に現在までに17支部を設立し、各国支部と連携している。その活動を推進するために、国際センターネットワーク誌「こころねっと」を発行し、帰国留学生と情報交換を行っている。



ビジネス日本語講座にてお辞儀の練習

■問合せ先

<担当部署>

福井大学学務部国際課

住所：〒910-8507

福井県福井市文京3-9-1

TEL： +81-776-27-8405（直通）

FAX： +81-776-27-9715

Email： gk-iadexchange@ml.u-fukui.ac.jp

<ウェブサイト>

福井大学： <https://www.u-fukui.ac.jp/>

語学センター： <http://www.lc.u-fukui.ac.jp/>



岐阜大学 (岐阜県)

日本語をみがく秋学期、日本文化に親しみ論文に集中する春学期

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

●岐阜大学は、5学部・1学環、8大学院研究科、学内共同教育研究支援施設、全国共同利用施設、図書館、医学部附属病院などからなる総合大学です。本学は「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の採択、「国際教養コース」の開設など、広い分野にわたって質の高い教育・研究が行われています。2020年には名古屋大学とともに東海国立大学機構を設立しました。

●岐阜大学のある岐阜市は、東京から約2時間（新幹線利用）、大阪や京都から約1時間（同）、名古屋から約20分という交通の便に恵まれた地方都市です。キャンパスのある柳戸地区は、岐阜駅からバスで約30分、自然豊かな田園地帯にあります。静かな環境に恵まれ、落ち着いた雰囲気の中で勉学に集中することができます。

●学部及び学生数等（2023年5月現在）

○学部・学環＝教育学部・地域科学部・医学部・工学部・応用生物科学部・社会システム経営学環

○大学院＝教育学研究科・地域科学研究科・医学系研究科・工学研究科・自然科学技術研究科・共同獣医学研究科・連合農学研究科・連合創薬医療情報研究科

○教員 846名

○学生 学部生 5,619名 大学院生 1,624名

研究生・聴講生 221名 合計 7,464名

② 国際交流の実績（2023年5月現在）

●現在、19カ国49大学と大学間学術交流協定、27カ国63大学と部局間学術交流協定を結んでおり、活発な国際交流を行っています。

●留学生在籍数 294名（約8割が大学院生、36カ国から）

●外国人研究者在籍数 2名

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数294名、日研生6名

2022年：留学生数254名、日研生5名

2021年：留学生数280名、日研生3名

④ 地域の特徴

●岐阜県は、日本のちょうど中央にあります。北部には高い山々が連なり、南部には清らかな川が流れています。日本の美しい自然と古き良き文化が残っており、伝統と現代とが調和した生活が見られる地域です。織田信長が城を構えた地としても有名です。

●岐阜県には、高山・郡上など、全国的に有名な観光地があります。岐阜市でも、中央を流れる長良川では伝統的な鶺鴒が行われ、そのほか多くの文化資源に恵まれています。

●岐阜市は、人口約40万人の中規模都市です。大都市より物価が安く、地域コミュニティ間の交流も活発なので、留学生生活を送るのに適した地域です。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修
日本事情・日本文化に関する研修を主とし、補助的に日本語能力の向上のための研修を行う約1年間のコースです。

② 研修・コースの特色

●日本語能力のレベルに応じて、日本語クラスを受講することができます。そのため、段階的で効果的な日本語能力の向上が可能となっています。

●多彩な日本文化科目を開講しています。受講生の興味・関心に従ってこれらの科目を受講することになります。

●1年間（秋学期・春学期）で効果的な学習ができるよう、本コース受講生対象のクラスを設けています。

●能・狂言等の鑑賞、地域文化体験、博物館見学などを行い、伝統文化に触れます。

●岐阜県内（岐阜市・郡上市など）および近県へ数回、見学や実習の旅行に行きます。

●岐阜大学留学生対象の旅行にも参加することができます。

●日本人学生と交流するクラスも設置しています。また、日本人学生および学部留学生用の授業を履修することも可能です。

●日研生をサポートするチューターがいます。

●本コース修了後、日本の大学院に再留学する修了生も少なくありません。

●修了生の感想をぜひご覧ください：

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/center/education/jlcourse/message/>

③ 受入定員

10名（大使館推薦5名、大学推薦5名）

※大使館推薦の学生を優先的に受け入れます

④ 受講希望者の資格・条件等

- 在籍大学において日本語・日本文化を主専攻とする学部学生（2年生以上）であること。
- 日本語能力試験N2合格以上、あるいはそれに相当する日本語力を有していること。

⑤ 達成目標

- 日本語能力の向上を目指すとともに（日本語能力試験N1合格以上）、実体験を通して日本文化についての広い知識を学びます。
- 修了論文作成を通して、研究および論文執筆・発表の基礎を身につけます。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2024年10月上旬 ～ 2025年8月下旬
（在籍期間：2024年10月1日～2025年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

10月初め：渡日
10月：秋学期ガイダンス・開講式
11月：大学祭、伝統衣装ワークショップ
12月：雅楽ワークショップ
1月：論文テーマ決定
4月：春学期ガイダンス
5月：郡上踊りワークショップ
6～7月：能楽ワークショップ等文化体験
8月：修了論文提出、修了論文発表会、論文審査、成績判定、修了式（2023年は8月24日）
8月末：帰国
（1年を通して随時上記以外の文化体験、地域貢献活動を実施）

⑨ コースの修了要件

- 日本語・日本文化研修コースで規定されている講義科目を受講し、出席率を満たした上で、一定の成績を修めて必要単位を取得すること（秋学期19単位、春学期21単位。次表参照）。
- 修了論文を執筆し口頭発表すること。
- 早期修了は、原則として認めない。
- 成績証明書、修了証書を発行します。
- 単位認定・単位互換は、在籍大学との交渉を通じて可能です。在籍大学に確認してください。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

- 実体験を伴って多彩な日本文化に触れることができます。秋学期には伝統衣装、雅楽、春学期には、郡上踊り、能楽、それぞれのワークショップが予定されています。
- 修了論文指導が非常に丁寧で充実しています。

【日本語科目】

- 「総合日本語」
中上級レベルの文法・語彙・読解・口頭表現・文章表現など、総合的な日本語能力の向上をはかります。
- 「日本語読解演習／文章表現／口頭表現／聴解演習」
個別の日本語能力の上達をめざします。

【日本文化科目】

- 「日本文学概論」「地域実見-岐阜を知る-」「日本文化へのいざない」
日本の社会と文化を学び、自国の社会と文化との相違を認識します。これらは本コース受講生のために設定されている科目です。
- 「日本事情C I」「言語学入門」
日本人学生とのディスカッションや共同作業を通して、多文化社会についての理解を深めます。

【全学共通教育科目】

- 日本人学生用に開講されている科目です。多様な講師による日本語での講義を受講します。

【論文指導・修了論文】

- 問題意識を高めた上で、論文の作成に進みます。論文完成後、修了論文口頭発表会を開催します。
- 2023年度（22期生）岐大日研生の修了論文テーマ
・日本の「おもてなし」
・「方言コスプレ」に関する考察
・日中両国の教育実習の比較研究
・「推し活」に費やすお金と幸福度の関係
・「忌み言葉」に対する若者意識の考察



2) 研修・コース開設科目

- 授業は秋学期・春学期原則各15週開講されます。
- 必要単位数は秋・春合計40単位です。
- 授業科目名は変更される場合があります。
- 一週間あたりのコマ数（1コマ＝90分）は下記のとおりです。

I) 必修科目

授業科目	秋学期	春学期	計
総合日本語	5 (5)	—	5 (5)
全学共通教育科目	—	3 (6)	3 (6)
日本語読解演習	1 (2)	1 (2)	2 (4)
日本語文章表現	1 (2)	1 (2)	2 (4)
日本語口頭表現	1 (2)	1 (2)	2 (4)
日本語聴解演習	1 (2)	—	1 (2)
日本事情C I	1 (2)	—	1 (2)
日本文学概論	1 (2)	—	1 (2)
地域実見岐阜を知る	1 (2)	—	1 (2)
言語学入門	—	1 (2)	1 (2)
日本文化へのいざない	—	1 (2)	1 (2)
論文指導	—	1 (1)	1 (1)
修了論文	—	(4)	(4)
合計	12 (19)	9 (21)	21 (40)

II) 選択科目

●より専門的な内容を学びたい場合は、学部開講科目の履修も可能な場合があります。ただし、担当教員の許可が必要です。

3) 見学、地域交流等の参加型科目

●秋学期には、「地域実見」では、岐阜県内施設（博物館、歌舞伎公演、農園等）を訪問し、地域の歴史や文化について学びます。春学期には郡上踊りのワークショップもあります。

●本学の歴代の日研究生は、地域（主に岐阜県郡上市）の観光振興プロジェクトや人事課研修に貢献しており、今後も継続が予定されています。

4) 日本人学生との共修がある科目

●春学期には、日研究生コースの一部として全学共通科目を選択します。日本人学生とともに学ぶ科目で、グループ活動が重視される授業では、活発な意見交換が求められます。ただし、全学共通科目の履修には、十分な日本語能力と担当教員の許可が必要です。

⑪ 指導体制

【責任教員】

氏名	所属	職名	専攻
土谷桃子	日文センター	教授	日本文学

【協力教員】

上記以外の日文センター教員、地域科学部・教育学部の教員、非常勤講師など



■宿 舎

●岐阜大学には、大学内に外国人留学生・研究者用の宿泊施設である国際交流会館があります。

●日本語・日本文化研修コース受講生は、この宿舎の単身室が優先的に提供されます。過去の本コース受講生は、全員本宿舎に入居しています。

【国際交流会館】

鉄筋コンクリート4階建（A棟）・5階建（B棟）
部屋数 単身室69室・夫婦室14室・家族室7室
（単身室A棟5,900円/月・B棟4,700円/月）

※今後、家賃は変更する可能性があります。



■修了生へのフォローアップ

●岐阜大学の日研究生コース修了者の特色は、再来日し日本の大学院に入る学生が多いことです。日本への再留学を希望する学生には、随時進路相談に乗っています。

●過去には、岐阜大学をはじめ、全国各地の国立大学の大学院に進学しています。研究者として本学に戻ってきた修了者もいます。

●大学院修了後、日本で就職した学生、帰国して日系企業に就職した学生がいます。

●本コース修了生がたびたび岐阜大学を訪問してくれることを、とても嬉しく思っています。

Facebookでも継続的に交流しています。



■問合せ先

<担当部署>

岐阜大学学務部国際事業課留学支援室

住所：〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1

TEL：+81-58-293-2142（直通）

FAX：+81-58-293-2143

Email：inbound@t.gifu-u.ac.jp

<ウェブサイト>

岐阜大学ウェブサイト

<http://www.gifu-u.ac.jp/>

岐阜大学日本語・日本文化教育センターサイト

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/center/>
（Facebookもご覧ください）

日研究生コースページ

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/center/education/jlscourse/>



静岡大学 (静岡県)

日本語教育、日本文化一般、自由研究、見学実習の総合プログラム

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

(1) 静岡大学の歴史

静岡大学は、1949年5月31日に旧制の静岡高等学校、静岡第一師範学校、静岡第二師範学校、静岡青年師範学校、浜松工業専門学校の5校を包括して、新制度の静岡大学として発足しました。その後、県立静岡農科大学の移管、キャンパスの統合、学部改組・拡充を行い、2023年10月現在7つの学部から構成されています。

静岡キャンパス：人文社会科学部、教育学部、理学部、農学部、グローバル共創科学部

浜松キャンパス：情報学部、工学部

(2) 学生数等 (2023年5月1日現在)

教員数：790名 職員数：336名

学生数：学部生 8,447名

大学院生 1,599名

② 国際交流の実績

(1) 大学間交流協定数 63

(2) 部局間交流協定数 49

(2023年5月1日現在)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2023年：留学生数356人、日研生3人

2022年：留学生数382人、日研生7人

2021年：留学生数387人、日研生3人



大学公式キャラクター「しずっぴー」

④ 地域の特徴

静岡県は本州の中央部で東京と大阪のほぼ中央に位置し、交通がとても便利です。南側には海、北側は富士山など高い山があり、自然に恵まれた住みやすいところです。観光地も多く、温泉などいろいろなところへ旅行に行ったり、名産品を楽しんだりできます。

気候はあたたかく、みかんやメロン、お茶など農業が盛んです。また、静岡県は楽器や輸送機器、薬品や健康産業など幅広い産業も発展しています。



茶畑と富士山



浜名湖の夕日

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

日本語授業を中心に、留学生の専門分野に関連した日本文化を学び、将来、日本と留学生の母国との架け橋になるような人材を育成します。

留学期間を10月～3月と4月～8月に分け、10月～3月は語学教育(日本語教育)中心の授業を組み、様々な日本人との交流活動にも参加します。4月～8月は留学生の専門分野を中心に、修了レポート作成、自由研究、見学実習などのプログラムを設定します。

③ 受入定員

9名(大使館推薦6名、大学推薦3名)

日本語能力、専門分野等により、静岡・浜松のどちらのキャンパスで受け入れるかを決定します。

④ 受講希望者の資格、条件等

(1) 外国の大学学部在学中、日本語・日本文化に関する分野を専攻する者

(2) 一定の日本語能力を有する者

(日本語能力試験N2以上)

(3) 2024年9月下旬の指定する日に渡日できる者

⑤ 達成目標

(1) 日本語

留学生のレベルに合わせて、中級から上級までのクラスを受講できます。最終目標は上級レベル(日本語5)であり、上級のレベルに達した学生は、全学教育科目の授業を中心に、さらに高度な日本語力を身につけます。

(2) 日本文化

伝統文化や歴史、文学、法学、現代社会などに関する様々な講義が用意されています。学生は、自らの関心に応じて関連する講義を受講し、専門分野に関する基礎的な知識を身につけます。また、フィールドワークや各種イベントへの参加を通じて、日本文化への理解を深めます。

⑥ 研修期間(在籍期間)

研修期間：2024年9月下旬～2025年8月下旬

(在籍期間：2024年10月1日～2025年8月31日)

(帰国は8月下旬の予定)

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月～2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月末	・ 渡日 ・ プレイメントテスト オリエンテーション
10月	・ 授業開始
11月	静大祭（大学祭） 
12月末～ 1月初め	<冬休み>
2月初め	試験期間
2月中旬	授業終了
2月中旬 ～3月末	<春休み>
4月初め	・ プレイメントテスト オリエンテーション ・ 授業開始
5月	春のビッグフェスティバル(静岡)
8月初め	試験期間、授業終了
8月下旬	修了式、帰国

留学生と日本人の交流イベント 随時

⑨ コースの修了要件

必修科目を含む各学期7科目以上の授業（年間で14科目以上）を履修、単位を修得し、レポートにより専門の研究を修了したと認められる者に、修了証を授与します。なお、修得した単位については、10月以降に成績証明書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

全てのレベルの日本語授業を開講するとともに、地域との交流活動を中心とする日本研修・交流プログラムや、留学生の専門にあった様々な文化科目が開講されています。



2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

留学生の日本語レベルによって必須科目が異なります。

- ・ 日本語レベル3の学生：日本語3 (JLPT N3レベル)
- ・ 日本語レベル4の学生：日本語4 (JLPT N2レベル)
- ・ 日本語レベル5の学生：日本語5 (JLPT N1レベル)

日本語以外の必修科目については、指導教員との相談の上、研修希望分野を学ぶために必要な基礎科目を履修します。

◆日本語科目（日本語・日本文化研修科目）

日本語・日本文化 研修科目		時間数		
		後期 10～3月	前期 4～8月	計
日本語3	読解・文法	30	30	60
	聴解・語彙	30	30	60
	作文・話し方	30	30	60
日本語4	読解・文法	30	30	60
	聴解・語彙	30	30	60
	作文・話し方	30	30	60
日本語5	日本語総合A	30	30	60
	日本語総合B	30	30	60
日本語 3～5	日本文化研修	46		46
	日本語と文化	30	30	60

*ただし、浜松キャンパスでは日本語5は開講されません。

II) 選択科目

レベル5以上の日本語学習を希望する場合は、学部留学生が受講する日本語科目を受講することができます。「日本語Ⅰ～Ⅵ」は、大学における学習・研究や日常生活に役立つ総合的な日本語能力を身に付けます。「日本事情」は、日本文化や異文化理解についての基礎的な知識を養います。

◆日本語科目（留学生科目）

全学教育科目		時間数		
		後期 10～3月	前期 4～8月	計
日本語Ⅰ	聞く・書く		30	30
日本語Ⅱ	読む・話す		30	30
日本語Ⅲ	発表	30		30
日本語Ⅳ	聞く・書く	30		30
日本語Ⅴ	読む・話す		30	30
日本語Ⅵ	実用日本語	30		30
日本事情	異文化理解	30		30

また、様々な文化科目も選択することができます。それぞれの科目の時間数は30時間です。これら以外にも多くの科目が開講されています。なお、これらの科目を受講する日本語レベルは上級が望ましいです。

◆文化科目

*年度により開講しないことがあります。

日本文化の科目（例）
人間学概論、社会学概論、心理学概論 文化人類学概論、歴史学概論、日本史概説 日本・アジア言語文化基礎論、日本文学概論 日本語学概論、書道、専門日本語基礎 憲法総論・統治機構、法学入門、日本経済史 国際社会と日本、国際日本学基礎 その他、日本文化に関連する科目 （全学教育科目・学部開講専門科目の一部）

3) 見学、地域交流等の参加型科目

「日本語・日本文化研修科目」では、地域や日本人学生との交流を行っています。また、「日本の文化」という授業では、静岡市内各所を訪問します。さらに、各学部においては、それぞれの分野に関係する実習科目を開講しています。

4) 日本人学生との共修等の機会

「日本事情」では日本人と留学生混合で、異文化理解について学習します。



⑪ 指導体制

(1) 指導教員：

留学生1人に対し、国際連携推進機構教員1人が、学習・生活面の指導を行います。

2024年指導教員：案野、袴田、佐川

(2) チューター：

留学生1人に対して1人の静岡大学学生チューターが付き、特に静岡・浜松に来たときの出迎えや、各行政手続きなどを手伝います。

(3) 協力教職員：

指導教員とは別に、留学生の日本での学習・生活・健康面について、様々な協力体制が整っています。

- ・ 静岡大学国際連携推進機構教員
- ・ 留学生カウンセラー
- ・ 留学生専門教育教員
(人文社会科学部、教育学部)
- ・ 人文社会科学部国際連携推進委員会
- ・ 教育学部国際交流委員会
- ・ 情報学部国際交流委員会
- ・ 静岡大学国際課
- ・ 国際交流ラウンジ

■ 宿 舎

留学生に宿舎を提供するとともに、様々な国籍の学生が集まる国際交流の場を提供することを目的として、留学生宿舎を用意しています。入居の許可期間は原則として1年間です。なお、室数が限られているので、希望しても必ずしも入居できるとは限りません。

① 静岡国際交流会館

室数：95室

面積(㎡)：居室7 ㎡、共有43 ㎡

入居にかかる費用：約13,200円～18,000円

宿舎料等(月額)：約27,400円～30,400円



② 浜松国際交流会館1号館

室数：35室

面積(㎡)：12.42㎡

入居にかかる費用：約27,000円

宿舎料等(月額)：約13,000円

③ 浜松国際交流会館2号館

室数：95室

面積(㎡)：居室7 ㎡、共有43 ㎡

入居にかかる費用：約5,400円

宿舎料等(月額)：約27,700円



④ あけぼの寮

室数：45室

面積(㎡)：15㎡

入居にかかる費用：約20,000円

宿舎料等(月額)：約15,000円

■ 修了生へのフォローアップ

(1) 海外同窓会

インドネシア、タイ、ベトナム、マレーシアで同窓会活動を行っています。

(2) 修了生の声

帰国後、大学に戻り、学位を取得。その後、再渡日。現在は通訳・翻訳・英語教育などの仕事をしている。留学中は、たくさんの日本人の友人ができて、日本語能力が向上し、日本人との国際交流を楽しめました。日研究生として採用された恩返しをしたいと思います。現在ALTとして静岡市内の学校で英語を教えています



■ 問合せ先

<担当部署>

静岡大学学務部国際課国際学生交流係

住所：〒422-8529

静岡県静岡市駿河区大谷836

TEL：+81-54-238-4260 (直通)

FAX：+81-54-238-5041

Email：inbound@adb.shizuoka.ac.jp

<ウェブサイト>

静岡大学国際連携推進機構：

<https://www.suoic.shizuoka.ac.jp/>

静岡大学：

<https://www.shizuoka.ac.jp/>